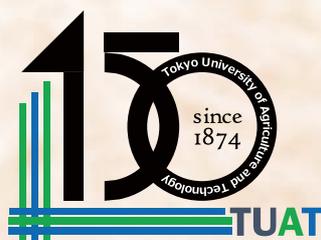


The Graduates' Association of Tokyo University of Agriculture and Technology

農工通信

No.105 2024.9



一般社団法人

東京農工大学同窓会

<https://tuat-dousoukai.org/>

TUAT Tokyo University of Agriculture and Technology

同窓会長挨拶／理事長の挨拶	1
学長寄稿	
創基150周年を迎えて	2
一般社団法人東京農工大学同窓会第6回定時総会	3
同窓会役員等体制・支部長及び連絡員表	7
令和5年度同窓会学生援助事業報告	8
部会・支部・同好会・クラス会だより	9
叙勲受章にあたり	22
西川 公也、矢口 芳生、花野 耕一	
退職にあたり	25
朝岡 幸彦、新井 克彦、高柳 正夫、篠原 和子、高橋 徹、野間 竜男	
同窓生からの寄稿文	
母校への思い	西田 和彦 農学 S36 27
コロナ禍で思った専門家の責任	鈴木 敏明 農化 S39 27
懐かしい私の大学時代	小嶋 桂吾 製糸 S42 28
国会図書館デジタルコレクションで曾祖父が農工大の大先輩と判明！	細村 弘義 林産 S45 28
悔いの多い、しかし楽しかった学生時代	伊藤 澄夫 製糸 S46 29
私が育て、そして私を育ててくれた日々	河野(鈴木)志津子 製糸 S46 29
生涯学習が充実している霧島市に移り住んで	武澤(小山)扶美江 製糸 S46 30
「大きくな～れ、吹奏楽部！」の4年間	田中 宣廣 製糸 S46 30
櫛察の思い出	津崎 繁義 製糸 S46 31
我がクラス点描	田中 良典 植防 S51 31
自動車部「農工祭の思い出」	宮里 圭一 農工 S53 32
ホームカミングデー2023あれこれ	福澤 徳穂 植防 S55 32
私の卒後40周年	橘 順吉 林学 S60 33
父の愛読書「井上成美」を読んで	古野 優 獣医 S60 33
クルーズ船旅のすすめ	細井 俊宏 農工 S62 34
工学部キャンパスを車窓越しに見て	川合 康夫 機シスH8 34
樹木学実習から生まれたワークショップ	豊田明日香 地生 H20 35
滋賀県の農業土木職員となって12年	鈴木 一成 地生 H25 35
キャンパス便り	
新緑の楓の輝く元で	川崎 隆弘 生体医用システム工学科3年 36
ブラごみ減らし隊	村井 陽香 農学府農学専攻修士課程1年 36
東京農工大学科学博物館 支援団体 繊維技術研究会の活動紹介	37
掲示板	38
広告	40
事務局だより	42

会長挨拶

会長 五味 勝 (電子S54)



会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素は本会活動に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

2020年から始まったコロナ感染症による様々な制限も終了し日常の生活のすばらしさを改めて実感できるようになりました。大学や同窓会の行事も通常通り開催することができ、大学構内もコロナ前の活気を取り戻しています。3月に開催された卒業式、4月の入学式では希望に満ちた卒業生、

入学生をご父兄の皆様、教職員並びに関係者の皆様でお祝いすることができました。

大学は今年創基150周年を迎えました。同窓生の皆様には、この大きなイベントに向けて東京農工大学基金へのご寄附に多くのご支援をいただいております。皆様には厚く御礼を申し上げます。創基150周年のイベントに関して、詳しくは今まで行った各種取り組み内容も含め大学のホームページから150周年記念事業をご覧ください。

同窓会は、「会員相互の親睦を深め、同窓並びに東京農工大学の発展を図ること」を目的とし、総会、部会・支部総会、各種同好会、在学生への就職支援など様々な活動を行っています。

同窓会の会員相互の親睦を深め、より良い同窓会として皆様にご提供できるよう努めてまいります。皆様のご健康と益々のご発展を心よりお祈りしております。

理事長あいさつ

理事長 戸田 浩人 (林学S59)



ポストコロナとなり感染症対策が必要とはいえ、会員の皆様も徐々にコロナ以前の日常に戻りつつあることお喜び申し上げます。本学の学生も基本的に通常の対面授業を受け、学園祭も人数制限などなく通常開催され、各種クラブ活動も盛んとなり、キャンパスに活気が戻ってまいりました。また、コロナ禍でノウハウを学んだオンラインの良い面を取り入れ、Learning Management System (LMS) を活用した授業となっています。

同窓会でも、これまで各種会議をWeb会議システムで開催してまいりましたが、対面での開催に戻しつつ一部はWeb会議を取り入れた形式となっ

ております。支部や部会の総会もご苦勞をされてきたと拝察いたします。2023年度は対面での開催が増え、支部総会等へ同窓会本部からの派遣要請をいただき、交流とともに同窓会への多様なご意見・ご支援を賜り、大変ありがたく感じております。

本年、本学は創基150周年を迎え、各種記念行事が行われております。大学のHP等をご覧ください、ご参加・ご協力いただければ幸いです。同窓会でも150周年記念の一環として、府中と小金井の両キャンパスで10,000千円ずつを拠出し学生や同窓生の皆様にも集っていただける場所の整備・充実に役立てることとし事業を進めております。完成した暁には、本誌や同窓会HP等でご紹介・ご報告いたします。

同窓会は、会員相互の親睦を深め、同窓及び東京農工大学の発展を図るため、今後も様々な事業活動を行ってまいりますので、引き続き、同窓会へのご支援・ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

▶ 表紙の絵

「Dahlia」 豊田 明日香 (地生H20)

秋の花の女王とも称されるダリア。水彩画教室で教える際は「キク科の花は舌状花。意外にもレタスが仲間」などと植物の雑学もお伝えしています。描くことをきっかけに、モチーフである植物や自然への興味を高めるのも教室の狙いの一つです。前回の表紙掲載をきっかけに、教室に足を運んで下さった方もいらっしや、武蔵境の教室には卒業生の先輩やその奥様、府中キャンパス近隣にお住まいなど、農工大縁の方も多く、母校の恩恵を感じています。最近では故郷の山梨県での展示や教室も行っており、甲斐明日香の作家名で活動を広げています。

題字：沢野 勉 (農化S32)

東京農工大学創基150周年を迎えて

東京農工大学長 千葉 一裕



本年、東京農工大学は創基150周年を迎えました。明治7年（1874年）に現在の新宿御苑の地に開設された内務省

農事修学場と同蚕業試験掛が、それぞれ本学の農学部、工学部の源流となったわけです。明治時代初頭の激動期に生まれたこの二つの組織は、その後の多くの変遷を経て、今から75年前に現在の地、府中と小金井にキャンパスを持つ「東京農工大学」として新たな道を歩み始めました。これまでの150年の間、農学と工学領域の教育と研究は日本の基盤を支え、その発展に大きく寄与してきたことは広く知られるところです。当時から食料の安定供給や森林資源の生産は国の発展にとって重要な役割を果たし、さらには世界レベルの品質を誇る繭糸生産が輸出産業の主軸となって日本の経済基盤を支えました。その後も長きにわたり先進的な研究活動を通じた優れた人材の輩出と技術革新に発展的に寄与し続け、現在に至っています。

ご承知のとおり、今日の世界の情勢は激動の渦中にあり、複雑化する国際関係と共に様々な社会的リスクも増え続けています。それと同時に気候変動や自然災害の増加、これまでに無い速度で進む生物多様性の喪失、延いては食料やエネルギーの供給に対する社会不安の拡大に繋がっています。この地球規模での深刻さは、その大部分が拡大する人間活動によるものであり、地球史上初めてのレベルにまで到達していると言われてしています。し

かしこのような時だからこそ、現在から未来に向けて変化し続ける社会や環境を的確に把握し、我々自身に迫るこうした諸々の課題を俯瞰的に捉え、その解決に向けて強い意志を持って実践することが不可欠であると考えています。その力の源泉は旺盛な好奇心に支えられた探求活動に邁進する熱意に他なりません。日々の活動の中で人と人とが出会い、繋がりを深める中、他者の個性を尊重し自らの独創性を発揮しながら、自身が目指すべき研究に没頭できる環境に恵まれた東京農工大学こそが、その力を存分に発揮する場でなければならぬと確信しています。

本学はこの創基150周年を機に、学生、教職員と社会との結びつきをさらに強め、個々の構想力を存分に発揮するイノベーションコモンズの建設を進めている他、キャンパス内の広大な圃場を活用した新たな理念に基づく技術開発拠点の整備、最先端の診療・検査機器を備えた小金井動物救急医療センターの開設など、これからのさらなる大学の発展をめざした教育研究環境の拡充も進めています。また、海外大学、研究機関との交流もより一層深め、世界第一線の研究大学として発展することを全学的な目標に掲げて努力を続けています。

東京農工大学がこれからも進化を続け、より大きな目標に向かうことができますことは、ひとえに同窓の皆様の日頃のご理解、ご尽力の賜であることをあらためまして感謝申し上げます。これからも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



一般社団法人東京農工大学同窓会 第6回定時総会

■日時：令和6年6月22日（土）13：00～14：10 ■場所：府中キャンパス
 ■総会出席者：95名 決議書提出者32名 合計127名

第6回定時総会は、6月22日（土）府中キャンパス農学部本館講堂で開催された。

議事に先立ち、五味会長から挨拶があり、来賓の千葉学長から「地球をまわす世界第一線の研究大学へ」と題する講演をいただいた。

定時総会の開催にあたって、野口副理事長から定足数を満たしたとの報告があった後、議事に入った。

議事

審議事項1 議事録署名人選出の件

戸田理事長から、議事録署名人選出の件について説明があり、審議の結果、原案どおり承認され、定款第20条により、五味会長と大里代議員・伊豆田代議員が議事録署名人になった。

審議事項2 令和5年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の件

報告事項① 令和5年度事業報告の件

報告事項② 令和5年度監査報告の件

上記案件は関連するため、一括して審議及び報告がなされた。

戸田理事長から、令和5年度貸借対照表【別記1】、正味財産増減計算書【別記2】、令和5年度事業報告【別記3】の説明があった。また、鈴木監事から令和5年度の監査について適正に行われているとの報告があった。

審議の結果、審議事項2が承認され、報告事項①及び②が確認された。



審議事項3 選挙管理委員選任の件

戸田理事長から、選挙管理委員選任の件について説明があり、審議の結果、下記の方を選任することが承認された。

- 委員長 望月 淳夫（機械S50）
- 委員 長谷場 健（農化S49）
- 菅野 茂樹（織工S49）
- 西山 拓詩（地生H14）

審議事項4 規則改正の件

戸田理事長から、代議員選出方法に関する規則の一部改正案について説明があり、審議した結果、原案どおり承認された。

報告事項③ 令和6年度事業計画の件

戸田理事長から、令和6年度事業計画【別記4】について説明があり、これを確認した。

報告事項④ 令和6年度収支予算の件

戸田理事長から、令和6年度収支予算【別記5】について説明があり、これを確認した。

【別記1】 貸借対照表 令和6年3月31日現在

一般社団法人 東京農工大学同窓会
 一般会計

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	60,489,961	58,203,126	2,286,835
現金	33,074	60,226	△ 27,152
当座預金	34,948,894	21,959,893	12,989,001
普通預金	25,507,993	36,183,007	△ 10,675,014
流動資産合計	60,489,961	58,203,126	2,286,835
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	45,000,000	45,000,000	0
普通預金	770,500	770,500	0
投資有価証券	284,229,500	284,229,500	0
基本財産合計	330,000,000	330,000,000	0
(2) 特定資産			
学生援助事業積立資産	119,204,315	124,345,129	△ 5,140,814
退職給付引当資産	589,260	364,930	224,330
特定資産合計	119,793,575	124,710,059	△ 4,916,484
固定資産合計	449,793,575	454,710,059	△ 4,916,484
資産合計	510,283,536	512,913,185	△ 2,629,649

科目	当年度	前年度	増減
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	260,932	152,085	108,847
流動負債合計	260,932	152,085	108,847
2. 固定負債			
退職給付引当金	589,260	364,930	224,330
固定負債合計	589,260	364,930	224,330
負債合計	850,192	517,015	333,177
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	119,204,315	124,345,129	△ 5,140,814
指定正味財産合計	119,204,315	124,345,129	△ 5,140,814
(うち特定資産への充当額)	(119,204,315)	(124,345,129)	(△ 5,140,814)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(330,000,000)	(330,000,000)	(0)
正味財産合計	509,433,344	512,396,170	△ 2,962,826
負債及び正味財産合計	510,283,536	512,913,185	△ 2,629,649

【別記2】 正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

一般社団法人 東京農工大学同窓会
一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[1,240,849]	[1,240,849]	[0]
基本財産受取利息	1,240,849	1,240,849	0
運用財産収入	[30,890,311]	[32,767,636]	[△ 1,877,325]
入会金	3,990,000	3,875,000	115,000
年会費	525,000	531,500	△ 6,500
終身会費	1,820,000	1,850,000	△ 30,000
賛助会費	23,860,000	23,130,000	730,000
利息	311	396	△ 85
寄附金	40,000	217,000	△ 177,000
雑収入	655,000	3,163,740	△ 2,508,740
受取寄附金振替額	[5,140,814]	[5,237,684]	[△ 96,870]
経常収益計	37,271,974	39,246,169	△ 1,974,195
(2) 経常費用			
運用財産支出	[29,953,172]	[24,051,353]	[5,901,819]
事業費	(14,032,264)	(11,270,462)	(2,761,802)
動静調査費	410,000	313,355	96,645
会報発行費	5,985,289	5,312,045	673,244
H P 管理作成費	20,770	785,730	△ 764,960
部会・支部活動費	4,400,000	3,370,800	1,029,200
こうほう支援室事業費	1,132,628	0	1,132,628
卒業生援助費	1,301,514	1,240,182	61,332
同窓会の森管理費	511,600	7,890	503,710
資料整備費	270,463	240,460	30,003
会議費	(3,258,425)	(1,227,147)	(2,031,278)
総会会議費	2,635,542	73,240	2,562,302
副会長懇談会(部会長会)会議費	94,550	34,980	59,570
運営委員会会議費	8,457	4,588	3,869
理事会会議費	519,876	208,819	311,057
支部長会会議費	0	905,520	△ 905,520
管理費	(12,662,483)	(11,553,744)	(1,108,739)
人件費	6,943,539	6,904,372	39,167
社会保険料等	1,192,418	1,277,438	△ 85,020
消耗品費	75,148	24,554	50,594
複写機トータルサービス料	492,939	530,280	△ 37,341
通信費	160,338	193,024	△ 32,686
旅費	891,933	305,394	586,539
事務用品印刷費	51,590	0	51,590
慶弔費	14,008	51,004	△ 36,996
光熱水費	194,223	149,935	44,288
職員厚生費	23,801	6,000	17,801
退職給付費用	250,000	250,000	0
振込手数料	259,590	278,082	△ 18,492
租税公課	260,074	270,687	△ 10,613
その他雑費	1,852,882	1,312,974	539,908
特定目的事業財産支出	[5,140,814]	[8,826,682]	[△ 3,685,868]
学生援助事業費	5,140,814	5,237,684	△ 96,870
被災会員支援事業費	0	960,000	△ 960,000
こうほう支援室事業費	0	2,628,998	△ 2,628,998
経常費用計	35,093,986	32,878,035	2,215,951
評価損益等調整前当期経常増減額	2,177,988	6,368,134	△ 4,190,146
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	2,177,988	6,368,134	△ 4,190,146
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,177,988	6,368,134	△ 4,190,146
一般正味財産期首残高	388,051,041	381,682,907	6,368,134
一般正味財産期末残高	390,229,029	388,051,041	2,177,988
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	[△ 5,140,814]	[△ 5,237,684]	[96,870]
受取寄附金	△ 5,140,814	△ 5,237,684	96,870
当期指定正味財産増減額	△ 5,140,814	△ 5,237,684	96,870
指定正味財産期首残高	124,345,129	129,582,813	△ 5,237,684
指定正味財産期末残高	119,204,315	124,345,129	△ 5,140,814
III 正味財産期末残高	509,433,344	512,396,170	△ 2,962,826

【別記3】 令和5年度事業報告

(1) 第5回定時総会の開催

令和5年6月24日(土)小金井キャンパスにて第5回定時総会を開催した。

議事内容は、審議事項1:議事録署名人選出の件。審議事項2:会長、副会長、理事及び監事選任の件。審議事項3:名誉会長推挙の件。審議事項4:令和4年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の件。報告事項1:令和4年度事業報告の件。報告事項2:令和4年

度監査報告の件。報告事項3:令和5年度事業計画の件。報告事項4:令和5年度収支予算の件。その他の件。

(2) 令和5年度各種会議の開催

令和5年5月20日、11月11日及び令和6年3月23日に理事会を開催した。また、令和5年11月11日に副会長懇談会・部会長会を開催した。

(3) 同窓会組織の強化及び活性化

1) 一般社団法人にふさわしい形で、安定した運営が行えるようにするため、各種規則の見直しや財政

運営の検討を行った。

- 2) 部会・支部・職域組織の同窓意識の向上と会員交流の促進を図る方策として、同窓会会報「農工通信」を8月に発行するとともに、4月に同窓会ホームページをリニューアルし各種情報発信の充実を図った。
- 3) こうほう支援室の事業として、大学と連携・協力しながら、同窓生が各地域や職場で活躍している情報を在学学生、高校生、会員等、学内外に広報するための取材活動を行い、同窓会HPの「交流ラウンジ」に掲載した。
- 4) 学内外問わず、同窓会活動を理解いただくよう、同窓会紹介パンフレットを入学時及びペアレンツデーにて配布した。また、同窓会WEBにより同窓会活動を紹介することでPR活動に努めた。
- 5) 部会・支部の要請に応じ、運営委員等本部員の派遣を行い、同窓会本部との交流を図った。
- 6) 部会・支部活動の活性化のための支援の方策について部会長会および理事会で意見交換を行った。
- 7) 卒業生に対して、大学が発行する証明書の発行手数料を援助した。
- 8) 同好会活動報告を会報および同窓会HPに掲載するなど、同好会活動の充実につながる支援を行った。
- 9) 入会金・賛助会費等の会費の更なる納付率向上のため入会されていない方に対して再度入会案内を送るなどの方策を引き続き行った。
- 10) 複写機保守契約の見直しにより所要経費を減額するなど歳出削減に努めた。
- 11) 農工通信の未着信な会員について追跡の動静調査を行った。
- 12) 祝電・弔電により祝意・弔意を表した。また、本会の発展に顕著な功績があった者に感謝状を贈呈した。

(4) 準会員に対する援助事業の実施

大学と協力しながら同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援の援助や合同企業説明会への協力等を行うことで、同窓生となる準会員（学生）に対して、就職支援等の充実を図った。

準会員の勉学・学生生活に関して、学会・コンテスト・コンクール等の発表・入賞祝い、学会誌・論文誌発表等援助、優秀卒論副賞等の援助、学園祭・課外活動の援助及び卒業・修了証書カバーの贈呈を行った。

(5) その他

- 1) 東京農工大学創基150周年を機に、同窓会として学生環境整備に資する資金援助を行うことを決定した。
- 2) 分収林返還後の八王子市有林に記念標柱を設置することが八王子市に認められ、当該土地の使用許可手続きを経て10月に記念標柱を設置した。また、当該分収林に関する歴史などを一般の方にも紹介できるように、同窓会HPにサイトを立ち上げ、標柱に貼付したQRコードからリンクできるようにした。

【別記4】令和6年度事業計画

(1) 第6回定時総会の開催

令和6年6月22日（土）府中キャンパスにて第6回定時総会を開催する。

議事内容は、審議事項1：議事録署名人選出の件。審議事項2：令和5年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の件。報告事項①：令和5年度事業報告の件。報告事項②：令和5年度監査報告の件。審議事項3：選挙管理委員選出の件。報告事項③：令和6年度事業計画の件。報告事項④：令和6年度収支予算の件。その他。

(2) 令和6年度各種会議の開催

令和6年5月、11月及び令和7年3月に理事会を開催する。令和6年11月に副会長懇談会・部会長会及び支部長会を開催する。

(3) 同窓会組織の強化及び活性化

- 1) 一般社団法人にふさわしい形で、安定した運営が行えるようにするため、規則の見直しや財政運営の検討を行う。
- 2) 部会・支部・職域組織の同窓意識の向上と会員交流の促進を図る方策として、引き続き同窓会会報「農工通信」を発行するとともに、同窓会ホームページにより各種情報発信の充実を図る。
- 3) こうほう支援室の事業として、大学と連携・協力しながら、同窓生が各地域や職場で活躍している情報を在学学生、高校生、会員等、学内外に広報するための取材活動を行う。
- 4) 学内外問わず、同窓会活動を理解いただくよう、同窓会紹介パンフレット（入学時及びペアレンツデーにて配布）及び同窓会WEBによるPR活動に努める。
- 5) 部会・支部の要請に応じ、運営委員等本部員の派遣を行い、同窓会本部との交流を図る。
- 6) 部会・支部活動の活性化のための支援の方策を検討する。
- 7) 卒業生に対して、大学が発行する証明書の発行手数料を援助する。
- 8) 同好会活動の充実を努める。
- 9) 入会金・賛助会費等の会費の更なる納付率向上のための方策を検討する。
- 10) 歳出削減に努める。
- 11) 農工通信の未着信な会員について追跡の動静調査を行う。
- 12) 祝電・弔電により祝意・弔意を表す。また本会の発展に顕著な功績があった者に感謝状を贈呈する。

(4) 準会員（学生）に対する援助事業の実施

- 1) 大学と協力しながら同窓会推薦キャリア・アドバイザーの派遣や合同企業説明会への協力等援助を行うことで、同窓会準会員（学生）に対する就職支援を行う。
- 2) 準会員の勉学・学生生活に関して、学会・コンテスト・コンクール等の発表・入賞祝い、学会誌・論文誌発表等援助、優秀卒論副賞等の援助、学園祭・課外活動の援助及び卒業・修了証書カバーの贈呈を行う。

(5) その他

- 1) 東京農工大学創基150周年事業に同窓会として協力する。

【別記5】 令和6年度収支予算

(単位：円)

区分	細分	項目	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	差異	予算積算の考え方
基本財産	収入	基本財産（前年度繰越金）	330,000,000	330,000,000	0	
		余剰金からの繰入（30%超える分）	0	0	0	
		上記以外の余剰金からの繰入	0	0	0	
		収入合計	330,000,000	330,000,000	0	
支出	他の財産へ繰出	0	0	0		
	支出合計	0	0	0		
		基本財産残高	330,000,000	330,000,000	0	
運用財産	収入	前年度繰越金	44,000,000	44,000,000	0	繰越見込額
		入会金	4,000,000	4,000,000	0	実績ベース 5000円×800人
		年会費	500,000	600,000	△ 100,000	実績ベース
		終身会費	1,700,000	2,000,000	△ 300,000	実績ベース
		賛助会費	24,000,000	24,000,000	0	実績ベース 30000円×800人
		利息	1,000	1,000	0	実績ベース
		寄附金	1,000	1,000	0	前年度予算と同額
		雑収入	500,000	500,000	0	その他の収入（農工通信広告収入など）
		基本財産運用益	1,200,000	1,200,000	0	利付国債利息収入見込等
			収入合計	75,902,000	76,302,000	△ 400,000
	支出	事業費計	16,520,000	16,500,000	20,000	
		動静調査等管理費	600,000	600,000	0	動静はがき郵便料等
		会報発行費	6,500,000	6,000,000	500,000	農工通信105号発行費用 見込額（参考見積）
		HP管理作成費	200,000	500,000	△ 300,000	HP維持管理費
		部会・支部活動費	6,300,000	6,300,000	0	前年度予算と同額
		こうほう支援室事業費	1,300,000	1,200,000	100,000	所要額積算（人件費、取材協力費等）
		卒業生援助費	1,300,000	1,300,000	0	卒業修了証書カバー、証明書発行手数料補助等
		同窓会の森管理費	20,000	300,000	△ 280,000	記念標柱管理費用（現地点検費用等）
		資料整備費	300,000	300,000	0	パンフレット、リーフレット印刷費等（前年同）
		会議費計	6,350,000	4,900,000	1,450,000	
		総会会議費	4,000,000	4,000,000	0	前年度予算と同額（旅費等）
		副会長懇談会（部会長会）会議費	200,000	200,000	0	前年度予算と同額（旅費等）
		運営委員会会議費	50,000	100,000	△ 50,000	主にリモート開催のため所要額減
		理事会会議費	600,000	600,000	0	前年度予算と同額
		支部長会会議費	1,500,000	0	1,500,000	今期開催のため予算計上（旅費等）
		管理費計	36,863,000	18,630,000	18,233,000	
		人件費	7,800,000	7,800,000	0	職員給与（前年度予算と同額）
		社会保険料等	1,300,000	1,300,000	0	事業主負担保険料（前年度実績ベース）
		備品費	200,000	200,000	0	前年度予算と同額
		消耗品費	500,000	500,000	0	前年度予算と同額
		複写機トータルサービス料	600,000	600,000	0	会議資料等コピー料金（実績ベース）
		通信費	250,000	250,000	0	電話料、宅配代金等（前年度予算と同額）
		旅費	1,700,000	1,700,000	0	前年度予算と同額（支部派遣旅費等）
事務用品印刷費	70,000	70,000	0	前年度予算と同額		
慶弔費	50,000	50,000	0	前年度予算と同額		
光熱水費	230,000	230,000	0	前年度予算と同額		
職員厚生費	30,000	30,000	0	職員健康診断費用補助（前年度予算と同額）		
退職給付費用	483,000	250,000	233,000	退職手当当期発生見込額の引当金計上分		
振込手数料	350,000	350,000	0	前年度予算と同額		
租税公課	300,000	300,000	0	法人税等（実績ベース）		
寄付金	20,000,000	0	20,000,000	大学創基150周年記念事業支援金		
その他雑費	3,000,000	5,000,000	△ 2,000,000	システム保守料、監査法人指導料等。その他予備費的な予算の減。		
予備費	0	0	0			
	支出合計	59,733,000	40,030,000	19,703,000		
	運用財産残高	16,169,000	36,272,000	△ 20,103,000	次年度繰越見込（収入予算－支出予算）	
特定目的事業財産	収入	前年度繰越金	134,000,000	140,000,000	△ 6,000,000	繰越見込額
		余剰金からの繰入（30%超える分）	0	0	0	
		上記以外の余剰金からの繰入	0	0	0	
		収入合計	134,000,000	140,000,000	△ 6,000,000	
	支出	学生援助事業費	7,000,000	7,000,000	0	前年度予算と同額
		被災会員支援事業費	1,000,000	1,000,000	0	前年度予算と同額
		その他本財産に適合する事業費	1,000,000	1,000,000	0	その他事業費
	支出合計	9,000,000	9,000,000	0		
	特定目的事業財産残高	125,000,000	131,000,000	△ 6,000,000		
	合計	471,169,000	497,272,000	△ 26,103,000		
退職給付費用引当資産	収入	前年度繰越金	589,260	364,930	224,330	
		運用財産からの繰り入れ	483,000	250,000	233,000	
		収入合計	1,072,260	614,930	457,330	
	支出	退職手当給付金	1,072,260	25,670	1,046,590	
		支出合計	1,072,260	25,670	1,046,590	
	退職給付費用引当資産合計	0	589,260	△ 589,260		
	総合計	471,169,000	497,861,260	△ 26,692,260		

同窓会役員等体制・支部長 及び 連絡員表

同窓会役員等体制 (第7回総会終結の時まで)

会 長

五味 勝 (電子S54)

副会長

内藤 廣信 (農学S41) 農学・生物生産学学会
 安藤 俊幸 (蚕糸S49) 蚕糸生物学部会
 仲井まどか (植防S62) 植防・応用生物学部会
 田中 智章 (農化S60) 農芸化学・応用生命化学部会
 近江 正陽 (林産S60) 林産・生物資源工学会
 伊豆田 猛 (環保S59) 環境科学部会
 本山 芳裕 (林学S48) 林学部会
 大里 耕司 (農工S52) 生産環境工学会
 小池 伸介 (地生H13) 地域生態システム学部会
 田谷 一善 (獣医S46) 獣医学部会
 大塚 克巳 (製糸S45) 製糸・高分子・生命工学会
 千田 武 (織工S46) 繊維・有機材料部会
 高野 文夫 (化工S51) 化学工学会
 前川 佳博 (工化S48) 応用分子化学部会
 (令和6年3月14日逝去)
 澤田 孚夫 (機械S40) 機械システム工学会
 竹村 淳 (電子H3) 電気電子工学会
 伊東 浩 (応物S52) 物理システム工学会
 加藤 美治 (MOT H21) MOT部会
 二見 能資 (生シ博H17) B A S E部会
 船田 良 (連農S63) 連合農学部会

理 事

理 事 長 戸田 浩人 (林学S59)
 副理事長 野口 恵一 (材料H1)
 副理事長 大川泰一郎 (農学S62)
 理 事 内藤 廣信 (農学S41)
 〃 安藤 俊幸 (蚕糸S49)
 〃 本山 芳裕 (林学S48)
 〃 千田 武 (織工S46)
 〃 高野 文夫 (化工S51)
 〃 加藤 美治 (MOT H21)
 〃 河野 詠 (獣医S45)
 〃 南木 好樹 (農工S58)
 〃 栗原 知 (林学S47)
 〃 松井 崇 (農工S51)
 〃 三宅 信行 (環保S55)
 〃 寺峰 孜 (養蚕S45)

監 事

加藤 誠 (農工S44)
 鈴木 創三 (農学S47)

運営委員

総務部長 桑原 利彦 (生機S57)
 副 部 長 田中 剛 (物生H7)
 副 部 長 金田 正弘 (獣医H12)
 事業部長 赤井 伸行 (環資H11)
 副 部 長 岡本 昭子 (応化H15)
 経理部長 斉藤美佳子 (工化H1)
 副 部 長 水川 薫子 (環資H18)
 広報情報課 村上 尚 (応化H12)
 副 部 長 滝山 博志 (化工S62)
 副 部 長 岡田 洋平 (応生H19)

同窓会支部長及び連絡員 (令和6年7月20日現在)

支部名	支部長名	連絡員名
北海道	荒木 和秋 (農学S50)	本間 聡 (地生H20)
青 森	大橋 統州 (農学S54)	楠美 祥行 (電子S58)
岩 手	深澤 光 (林学S56)	小澤 結 (環資H11)
宮 城	鈴木 正彦 (林学S57)	大類 清和 (林学H2)
秋 田	倉部 明彦 (農工S57)	畠山 欣也 (環・資H8)
山 形	河野 詠 (獣医S45)	川崎 聡明 (生産H9)
福 島	荒井 賢治 (農工S47)	横山 健 (国際院H22)
茨 城	川野 和彦 (林学S50)	磯邊 晋吾 (林学S62)
栃 木	南木 好樹 (農工S58)	篠崎 敦 (生産H18)
群 馬	山本 明 (農工S45)	影澤 圭太 (林産H3)
埼 玉	金本 伸郎 (農学S51)	竹詰 一 (農学H2)
千 葉	伊藤 道男 (林学S48)	津金 胤昭 (応生H6)
東 京	栗原 知 (林学S47)	栗原 知 (林学S47)
神奈川	坂本 英介 (蚕糸S53)	笠木 一行 (農学S62)
新 潟	並木 茂吉 (蚕糸S50)	村山 康則 (農学H3)
富 山	小杉 啓一 (林学S54)	飯野 師 (地生H18)
石 川	坂口浩一郎 (林学S58)	濱崎 貴史 (環資H15)
福 井	野坂 雄二 (農工S53)	新海 隆介 (環・資H12)
山 梨	眞浦 正徳 (養蚕S46)	小松澤 靖 (林学H2)
長 野	鈴木 秀行 (農学S55)	小坂橋晴之 (地生H19)
岐 阜	工藤 正弘 (織工S44)	雨宮 功治 (植防S60)
静 岡	杉山 嘉英 (林学S52)	小松 鷹介 (地生H23)
愛 知	瀧上 紀吉 (機械S41)	山口 知幸 (農学H4)
三 重	西野 実 (生産H7)	豊田 晶子 (生産H18)

支部名	支部長名	連絡員名
滋 賀	森井 源藏 (農工S50)	鈴木 一成 (地生H25)
京 都	松井 崇 (農工S51)	平野 孝志 (農工S53)
大 阪	佐々木良和 (農工S39)	中野 淳 (機械S60)
兵 庫	上坂 修一 (林産S54)	檜野 由憲 (林産S59)
奈 良	山本 治幸 (電気S54)	岩治 新 (地生H20)
和歌山	中尾 俊二 (林学S53)	森本 唯史 (地生H16)
鳥 取	江原 宏昭 (農学院S48)	坂東 悟 (農化S61)
鳥 根	松浦 史瑞 (林産H1)	中島 敬 (農工H4)
岡 山	渡邊 直人 (林学S50)	佐野 大樹 (生産院H16)
広 島	三宅 信行 (環保S55)	石田 一之 (機械S59)
山 口	松村 聰 (工化S46)	岡本 賢一 (植防H4)
徳 島	長谷川 進 (工化S47)	小杉純一郎 (林学S63)
香 川	鳥取 康治 (織高S51)	遠藤 克彰 (機シスH24)
愛 媛	池上 正彦 (蚕糸S52)	尾中 直道 (環・資H7)
高 知	寺峰 孜 (養蚕S45)	豊田 陽一 (蚕糸S57)
福 岡	後藤 卓 (林産S50)	平島 亮介 (生産H13)
佐 賀	御厨 秀樹 (植防S56)	御厨 秀樹 (植防S56)
長 崎	古賀 淳士 (農学S52)	大内 直史 (農学S62)
熊 本	田中 良典 (植防S51)	上野 周子 (植防S61)
大 分	板井 隆 (農学S52)	池上 哲生 (農学H4)
宮 崎	森 房光 (林学S53)	川越 研太 (機シスH23)
鹿児島	平 繁人 (養蚕S45)	長谷川信幸 (製糸S54)
沖 縄	糸数 剛 (農工S45)	大城 篤 (応生H9)

令和5年度 同窓会学生援助事業報告

同窓会学生援助事業では、在学生（準会員）の学会発表、コンテスト・コンクールへの出場、優秀卒業論文、種々の課外活動、学園祭に対して「同窓会研究課外活動奨励賞」および副賞を授与しています。

この事業は、会員の皆様から納入いただいた同窓会費（終身会費・年会費）や入学時に納入いただいた入会金・賛助会費により運営しております。令和5年度の援助総額は3,591,900円でした。ここにご報告させていただきますとともに、厚くお礼申し上げます。

今後とも母校援助にご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

事 項	件 数	金 額
学会発表 <参加・出場>	144名	720,000円
学会発表 <入賞>	44名	220,000円
コンテスト・コンクール <出場>	2名16団体	170,000円
コンテスト・コンクール <入賞>	2名12団体	70,000円
学会誌・論文誌発表	1名	15,000円
優秀卒業論文	8学科	80,000円
課外活動 <学園祭>	2件	200,000円
課外活動 <サークル活動>	20件	1,000,000円
課外活動 <リーダース・トレーニング>	1件	50,000円
キャリア・アドバイザー支援	2名	120,000円
卒業・修了証書カバー支給	1,620名	946,900円
合 計		3,591,900円

※詳細については、同窓会ホームページ(<https://tuat-dousoukai.org/student/>)をご覧ください

=令和5年度「同窓会学生援助事業 研究課外活動奨励賞」受賞者のコメント=

田中 優樹さん 共同先進健康科学 博士3年

この度は同窓会の学生援助事業において奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。私は第20回ファンクショナルフード学会において「ルテインによる骨代謝調節作用の解析」という演題で口頭発表を行い、最優秀若手演題賞を受賞しました。本研究では天然色素であるルテインが骨粗鬆症予防に役立つ機能を持つことを報告しました。骨や筋肉で構成される『運動器の健康を維持すること』は所属研究室の大きなテーマであり、今後とも皆様の健康と幸福に役立つような発見を重ねていきたいと考えております。

研究に際しましてご指導いただきました稲田研究室の皆様にはこの場を借りて厚く感謝申し上げます。皆様のおかげでこのような成果をあげることができました。今後またゆめぬ研鑽を行い、研究活動に励んでいきます。



市原 悠里さん 機械システム工学科3年

同窓会から毎年のご支援をいただき、本当にありがとうございます。

航空研究会は、昨年9月に開催された「第19回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」に出場しました。4つの部門全てに出場し、全部門で3位以上入賞、一般部門においては1位から3位を独占することができました。一から設計・製作したラジコン飛行機やマルチコプターを用いて大会に出場することで、工学部生として非常に有意義な経験を積むことができております。特に昨年度は、限界では困難とされている全翼機や垂直離着陸機の開発にも成功しました。今後は機体の設計・製作技術に加えて、自動制御技術の向上を目指していきます。また、3月に行われた「種子島ロケットコンテスト」にも参加しており、1部門で受賞しております。

航空研究会は、同窓会の皆様のご支援のおかげで活動できております。今後も皆様のご期待に応えられる成績を残せるよう、部員一同精進してまいります。



お知らせ

学生援助事業（後期）募集:令和6年11月15日～令和7年1月20日（HPでご案内します）。

援助対象 令和6年度内に実施、又は実施予定の（1）～（3）が対象となります。

- （1）学会発表（年度1回 後期で募集）
- （2）研究あるいは技術開発等のコンテスト・コンクール出場等（年度1回 後期で募集）
- （3）学会誌・論文誌発表等の援助（年度2回 前期、後期で募集）

応募資格・応募方法は同窓会ホームページ<学生援助事業>をご覧ください。

第66回 農学部 学園祭

府中キャンパス

2024年11月8日(金)～10日(日) 開催予定!

詳しくは [東京農工大学 農工祭 検索](#)

部会・支部・同好会・クラス会だより

部会・支部・同好会・クラス会だよりの最新情報は、同窓会ホームページに随時掲載しておりますので、是非ご覧下さい。誌面の都合上、実施事項・総会議題等の詳細は、同窓会ホームページ「部会・支部だより」に全文掲載しております。

部会だより



ご所属の部会は、卒業（修了）時の学科に基づいております。HP「部会・支部総会日程」の下の「部会一覧表」を参照下さい。

生産環境工学部会



日 時 令和5年9月9日（土）
 開催場所 東京農工大学50周年記念ホール
 （オンラインを併用したハイブリッド開催）
 本部派遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員
 参加人数 29名
 実施事項 2023年総会・講演会・懇親会
 幹事・報告者 帖佐 直（農工H4）

<幹事のコメント>

総会では、今後の部会の運営についてWEBを活用した総会・懇親会などのイベントの周知、クラス会の開催情報の共有などについて意見交換しました。講演会は農政調査委員会調査研究部専門調査員（現在、宇都宮大学助教）の小川真如氏（生産H21）を講師に招き、「水田農業政策の大転換と今後の水田利用のあり方」についてご講演頂きました。

総会・講演会後は懇親会も実施しました。20名を超える参加があり、久しぶりの再会を通じて、お互いの健勝を喜び合う会となりました。

蚕糸生物学部会



日 時 令和5年10月28日（土）
 開催場所 東京農工大学 50周年記念ホール
 本部派遣 金勝 一樹 先生
 参加人数 80名
 実施事項 令和5年度 蚕糸生物学部会総会
 幹事・報告者 安藤 俊幸（蚕糸S49）

<幹事のコメント>

前回開催（平成30年）から、コロナ禍で、会員の集合・総会開催が厳しい状況におかれ、総会実施を見送ってきました。

今回、5年ぶりに開催の環境が整い、同窓会のご支援もいただき開催しました。会員から、開催にご賛同の声も多く頂き、前回より参加者数の減少が10名程度あったものの、多くの方々から遠方よりご参加下さいました。総会では、参加会員の方々から近況報告をいただき懇親を深めました。

次回、また、3年後の再会を約束して散会いたしました。

獣医学部会



日 時 令和5年7月8日（土）
 開催場所 東京農工大学農学部2号館1階11番教室
 派遣理事名 金田 正弘 先生
 参加人数 28名
 実施事項 令和5年度 獣医学部会総会
 幹事・報告者 金田 正弘（獣医H12）

<幹事のコメント>

獣医学部会では毎年総会を行っているが、ここ3年間はコロナ禍のため対面での開催ができなかった。今回、久々に対面での開催となり、また総会に続いて行っている研究講演会では初めてハイブリッド形式として2人のOBの先生方からご講演をいただいた。対面に参加できなかった会員のみならず、HPを通して会員限定のコンテンツとしても配信を行った。今後も様々な試みを通して、同窓会の活性化を行っていきたいと考えている。

支部だより



北海道支部



日 時 令和5年12月10日（日）
 開催場所 ネストホテル札幌駅前（WEB形式併用）
 本部派遣 青木 康浩 先生
 参加人数 22名（うちWEB参加5名）
 実施事項 令和5年度 北海道支部総会
 幹事・報告者 本間 聡（地生H20）

<幹事のコメント>

総会後、来賓の青木先生より、母校の近況のほか、先生の研究内容としてイアコンサイレンジ（飼料用とうもろこしの利用形態の一つ）についてご講義いただきました。家畜飼料をいかに確保するかは農業王国北海道において非常に注目度の高い話題でもあり、参加者からは次々に先生へ質問がされました。

新型コロナウイルスによる行動制限がなくなってから初めてとなった総会では、大学歌などの懐かしい歌声も会場に戻ってきました。

青森県支部



日 時 令和5年11月11日(土)
 開催場所 つかさ(青森市)
 参加人数 13名
 実施事項 令和5年度 青森県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 楠美 祥行(電子S58)

<幹事のコメント>

青森県支部総会は4年ぶりの開催でしたが、掲載の許諾を頂いた支部会員の名簿を配布し、同窓の交流を深めるためのきっかけづくりといたしました。懇親会では、現在の府中、小金井キャンパスを動画で紹介し、各会員がお互いの学生生活の思い出を語り合い、また、社会人となってからの活躍や近況についてもお話が弾み、大変和やかな会となりました。

岩手県支部



日 時 令和6年1月27日(土)
 開催場所 菜園マイクロブルワリー with Kitchen
 本部派遣 天竺桂 弘子 先生
 参加人数 23名
 実施事項 令和5年度 岩手県支部総会・交流会
 幹事・報告者 館向 博基(応化H11)

<幹事のコメント>

5年ぶりの支部総会でした。来賓の天竺桂先生から、農工大の近況や昆虫食について御講演いただきました。懇親会は、蚕糸OB 冨田さんが起業した岩手で有名なベアレンビールの直営店を会場として、国際コンクールで受賞したビールを堪能しました。参加人数は23人でしたが、初参加の方も9人と多く、幅広い年齢層から参加があり、小規模ながら盛り上がった会であったと思います。

宮城県支部



日 時 令和5年10月21日(土)
 開催場所 ホテル白萩(宮城県仙台市)
 参加人数 13名
 実施事項 令和5年度 宮城県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 大類 清和(林学H2)

<幹事のコメント>

新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催となりました。感染拡大状況を注視しながらの再開で、今回は本部派遣依頼を見合わせ、

例年より遅い時期になったこともあり、例年の半分程度の参加者数で、当初は少し寂しい会になるかと思いましたが、しかしながらそれも杞憂に過ぎず、初参加の会員の出席があり、総会での意見交換も活発で、懇親会ではこの4年間の近況等を各会員から報告いただきながら、予定時間をオーバーする盛会となりました。

福島県支部



日 時 令和5年11月18日(土)
 開催場所 ホテル ザ・大亀(福島市)
 本部派遣 水川 薫子 先生
 参加人数 30名
 実施事項 福島県支部第57回通常総会
 幹事・報告者 三森 裕(生産H13)

<幹事のコメント>

福島県支部総会が会員29名の出席のもと、運営委員の水川薫子講師のご臨席をいただき盛大に開催されました。今回は、4年ぶりの開催とあって、久々に同窓の皆様で顔を合わせることができ、参加の皆様からは、来て良かった、とのお声をいただきました。また、初めてご参加された方が大勢おられました。懐かしい方々、また新しい方々とお話は尽きず、終始和やかな雰囲気でご会話が進行し、大変盛り上がりました。

栃木県支部



日 時 令和5年12月10日(日)
 開催場所 ホテルマイステイズ宇都宮
 本部派遣 大川 泰一郎 先生
 参加人数 19名
 実施事項 令和5年度 栃木県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 篠崎 敦(生産H18)

<幹事のコメント>

令和5年度栃木県支部総会は、コロナ禍明けの久しぶりの実開催となりました。総会后、来賓の大川先生より母校の近況を御紹介いただき、創基150年に改めて感銘を受けた次第です。また、懇親会では、会員の皆さまが近況を報告しあい、笑顔のあふれる充実した時間となりました。会員の皆さまにおかれましては、改めまして、栃木県支部活動へのご理解とご協力をお願い致します。来年度、また元気で会いましょう。

埼玉県支部



日 時 令和5年12月3日(日)
 開催場所 さいたま市 アズーリクラシコ
 参加人数 25名
 実施事項 令和5年度 埼玉県支部総会
 幹事・報告者 竹詰 一(農学H2)

<幹事のコメント>

総会では、令和4年度事業報告並びに決算報告、令和5年度事業計画並びに予算案、役員の改選について審議され承認されました。また、支部長から東京農工大学創基150周年などの報告や、会員からは近況報告、埼玉県内で発生した高病原性鳥インフルエンザに係る殺処分・防疫措置等について報告がありました。

東京都支部

【東京都支部ホームページ】
TOPページ

日 時 令和5年7月1日(土)
開催場所 50周年記念ホール
参加人数 10名
実施事項 令和5年度 東京都支部総会
幹事・報告者 栗原 知(林学S47)



<幹事のコメント>

支部長の総括

COVID-19蔓延以来、初のオフラインでの例会を4月に開催、引き続き今回の支部総会にこぎつきましたことを関係者に感謝申し上げます。

今後も例会を含めて多くの参加者が集まるようにしたいと思います。これは皆様方にぜひお願いしたいと考えており、各員の周囲の方々にぜひお声をかけていただき、草の根活動で徐々に参加者が増加することを祈念します。

会合では、今後の支部の在り方、ホームページの充実など活発な意見交換があり、今後も皆で協力して取り組むという認識を共有しました。上記の東京都支部ホームページのQRコードから支部の活動を是非ご覧ください。

神奈川県支部



日 時 令和6年1月27日(土)
開催場所 海老名市内 ザ・ウィングス海老名
派遣理事名 滝山 博志 先生
参加人数 26名と来賓理事
実施事項 令和5年度 神奈川県支部総会・懇親会
幹事・報告者 笠木 一行(農工S62)

<幹事のコメント>

令和元年度以降、4年ぶりの対面で、平常に戻ったことを感謝しながら、総会が開催されました。

来賓として滝山教授から東京農工大学の近況をお話いただき、昨今の厳しい財政状況の下、様々な工夫と仕掛けを行い、大学としての存在意義を高めているお話がありました。また会員からは、県西地域の柑橘の品種改良の話、社会人学生として学位を取得した話、初めて総会に参加した会員からの近況報告など、あっという間に時間は過ぎ、終始、なごやかに懇親ができました。

新潟県支部



日 時 令和5年7月8日(土)
開催場所 「富来屋」(新潟市)

本部派遣 桑原 利彦 先生
参加人数 15名
実施事項 第60回(令和5年度) 新潟県支部総会・研修会
幹事・報告者 事務局 村山 康則(農学H3)

<幹事のコメント>

コロナ禍で会合形式を見送っていた支部総会を4年ぶりに開催し、15名が参加しました。定例総会の後、桑原先生より本学の近況を紹介いただき、その活躍ぶりに皆さんご満悦でした。懇親会では、参加者全員の近況報告など、30代から80代まで世代を超えて大学時代の思い出で大いに盛り上がりました。

富山県支部



日 時 令和6年3月9日(土)
開催場所 しゅん家(富山県富山市)
本部派遣 桑原 利彦 先生
参加人数 11名
実施事項 令和5年度 富山県支部総会・懇親会
幹事・報告者 飯野 師(地生H18)

<幹事のコメント>

総会では、新型コロナウイルス等の影響で経済的に修学が困難な学生を支援しようと、東京農工大学の「修学支援基金」へ支部から10万円の寄付を行ったことをご報告いたしました。

桑原先生からは、大学の研究力が高く評価されている現状や今後世界第一線の研究大学を目指していくことなどの説明をいただきました。

アフターコロナの今回を新たな出発点として、富山県支部も母校と同じように、より一層発展していくよう会員の皆様と共に努力していきたいと思っています。

長野県支部



日 時 令和5年11月11日(土)
開催場所 シャトレーゼホテル長野(長野県長野市)
本部派遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員
参加人数 38名
実施事項 令和5年度 信濃同窓会総会
幹事・報告者 小坂橋 晴之(地生H19)

<幹事のコメント>

コロナ禍のため4年ぶりの総会となりましたが、総勢約40名の同窓生に御参加いただき、懇親を深めることができました。参加者の中には、90代で初めて御参加いただいた方や、県外から駆けつけてくださる方、20代の若い同窓生など、幅広く参加をいただき、盛況となりました。

2024年は大学創基150周年になりますが、当会も総勢800名を超える会員がおりますので、引き続き、会員間の交流が深まるよう取り組んでまいりたいと思います。

岐阜県支部



日 時 令和5年7月8日(土)
 開催場所 「長良川観光ホテル石金」及び「ぎふ木遊館」
 本部派遣 岡田 洋平 先生
 参加人数 13名
 実施事項 令和5年度 岐阜県支部総会・懇親会・
 「ぎふ木遊館」現地視察
 幹事・報告者 副支部長 雨宮 功治(植防S60)

<幹事のコメント>

総会に先立ち、農工大OBが建設に深く関わった木育施設「ぎふ木遊館」を視察、多くの家族連れで賑わう中、藤掛雅洋(林学S62)さんによる説明を受けた。その後「長良川観光ホテル石金」にて総会を開催、役員改選では支部長に工藤正弘(織工S44)さんを再選、岡田洋平先生から農工大の近況を説明いただいた後、懇親会を開催した。20代から70代まで幅広い年代が参加し、世代を超えて大学時代の思い出話で大いに盛り上がった。

静岡県支部



日 時 令和5年7月1日(土)
 開催場所 静岡駅前会議室
 本部派遣 野口 恵一 先生
 参加人数 38名
 実施事項 令和5年度 静岡県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 連絡員 土屋 雄人(応生H20)

<幹事のコメント>

コロナ禍の影響でどれだけの参加者があるか見込めない不安の中で、4年ぶりに本部から副理事長をお招きして総会を開催し、以前と概ね同等規模の参加が得られました。

野口先生から大学の近況のお話を頂くとともに、仁平様から成年後見制度の概要や認知症患者との接し方などについてお話を頂きました。

従来の会場の閉館により総会と懇親会を別会場で実施するなど試行錯誤でしたが、参加者全員の1分間スピーチもでき、今後に向けての明るい兆しが見えた気がします。

愛知県支部

日 時 令和5年4月5日(水)(書面発送)～4月30日(日)
 (返信〆切)
 開催場所 書面送付による
 参加人数 197名(返信総数)
 実施事項 愛知県支部 第52期(令和4～5年度)総会(書面)
 幹事・報告者 山口 知幸(農学H4)

<幹事のコメント>

令和5年4月に書面総会を開催した結果、支部会則改正、前期決算、当期予算について承認されました。併せて、新幹事を募集したところ3名の応募があり、就任を依頼することとしました。また、今後の支部連絡については、寄せられた意見を参考に、文書とメールを併用し、希望者にはメールで連絡することとしました。

三重県支部



日 時 令和5年10月1日(日)
 開催場所 「新玉亭」(津市)
 本部派遣 戸田 浩人 先生
 参加人数 17名
 実施事項 令和5年度 三重県支部総会
 幹事・報告者 西野 実(生産H7)

<幹事のコメント>

三重県支部の総会を4年ぶりに開催することができました。総会では同窓会本部から戸田浩人先生を迎え、大学の近況について報告いただきました。久しぶりの開催ということで参加いただけるかどうか不安でしたが、三重県支部としては多めの17名に参加いただきました。三重県支部の役員体制は長らく変わっていませんでしたが、来年度以降は新役員を迎えて活動を継続していくことになりました。

京都府支部

日 時 令和6年3月14日(木)
 開催場所 京都市内
 参加人数 3名
 実施事項 京都府支部世話人会議
 幹事・報告者 支部連絡員 平野 孝志(農工S53)

<幹事のコメント>

1回目(令和5年7月10日、京都市内で開催、参加人数3名)
 ・令和5年度活動内容、予算等の中間確認・支部総会、交流会の中止を決定

2回目(令和6年3月14日、京都市内で開催、参加人数3名)
 ・令和5年度活動実績、決算の確認・令和6年度活動計画、予算の協議
 ・支部総会の対面での9月開催を計画(京都府内でのコロナ等感染状況を注視)

コロナ感染状況を勘案して4年間支部総会の対面開催を休止してきました。令和6年度は以前のように対面での開催を予定することとしました。

滋賀県支部



日 時 令和6年2月10日(土)
 開催場所 ホテルポストプラザ草津 びわ湖
 本部派遣 野口 恵一 先生
 参加人数 22名
 実施事項 令和5年度 滋賀県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 鈴木 一成(地生H25)

<幹事のコメント>

5年ぶりに支部総会を開催し、初参加の方も含めて22名の方にご参加いただきました。

野口恵一先生には、大学の近況について、最新の入試動向や研究内容を交えてご講演いただき、活発な質疑応答がなされました。懇

親会ではみなさんの話題が尽きることはなく、最後は恒例となっている学歌・寮歌の合唱で大変盛り上がりしました。今後も、滋賀県支部の活動を皆さんと一緒に盛り上げていければと思いますので、どうぞよろしく願いたします。

奈良県支部



日 時 令和5年10月1日(日)
 開催場所 梁山泊・本館(奈良市内)
 参加人数 9名
 実施事項 奈良県支部 資産運用勉強会
 幹事・報告者 岩治 新(地生H20)

<幹事のコメント>

資産運用や資産形成が私たちの生活の中で重要になってきているなか、本支部では、前回総会時に話題が上がった資産運用についての学習会を実施しました。

大手証券グループを勤め上げ、現在はその知識を活かして自己の資産運用をされている支部長、支部会員から資産運用のための基礎知識を株取引を中心に講演いただきました。

その後の懇親会では会員同士で運用の成功・失敗談など大いに盛り上がりしました。

兵庫県支部



日 時 令和5年11月11日(土)
 開催場所 神戸市三宮(燦-SUN- 神戸店)
 本部派遣 赤井 信行 先生
 参加人数 23名
 実施事項 令和5年度 兵庫県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 上坂 修一(林産S54)

<幹事のコメント>

4年ぶりのため、兵庫県支部名簿の469名全員に同窓会案内を送付。出席者は23名。約100名から欠席の連絡あり。次回からはこれらの人に案内を送ることにしたい。また、メールにて連絡の可能な人については往復はがきをやめてできるだけ事務処理の負担を軽減したいと思う。40歳以下の若い世代からの回答は少ない。若い世代が参加しやすい具体的な工夫を今後考えてゆくのが課題。

岡山県支部



日 時 令和5年8月26日(土)
 開催場所 ピュアリティまきび
 派遣理事名 山本 ゆき 先生
 参加人数 16名
 実施事項 令和5年度 岡山県支部総会・懇親会

幹事・報告者 連絡員 佐野 大樹(生産院H16)

<幹事のコメント>

講演会では、山本ゆき先生から「東京農工大学の近況」、元岡山県農林水産総合センター農業研究所の高野和夫博士から「蒜山高原のブルーベリー」と題して、お話をいただきました。大学の様子や、ブルーベリー栽培の注意点など、活発な質疑応答がありました。

総会議事では、副支部長が、6年間務めていただいた藤原稔氏(化工S44)から中崎義晃氏(化工S53)にバトンタッチされました。懇親会では参加者相互の近況交換等行い、楽しい一時を過ごすことができました。

広島県支部



日 時 令和5年5月14日(日)
 開催場所 ホテルメルパルク広島
 派遣理事名 村上 尚 先生
 参加人数 20名(派遣理事含む)
 実施事項 令和5年度 広島県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 石田 一之(機械S59)

<幹事のコメント>

今年はコロナ第5類に移行後、G7広島サミット開催前の絶妙タイミングを狙い5月14日支部総会開催を計画。メール案内、Facebook掲載等効果で昨年を上回る20名が参加。一方、コロナ禍では参加自粛だった県庁職員、マツダ社員の参加数が意外と増えず次回に向け平常時の繋がり大切さを認識。総会では活動報告の後、三宅信行支部長と石田連絡員の継続を全員拍手で承認。懇親会前には全員で握手しながら顔と名前を記憶。懇親会では全員自己紹介と楽しい近況報告で歓談。記念撮影後、一本締めを行い楽しい同窓会を終了。

山口県支部



日 時 令和5年7月23日(日)
 開催場所 紫水園(周南市)
 参加人数 9名
 実施事項 令和5年度 山口県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 岡本 賢一(植防H4)

<幹事のコメント>

このたび4年ぶりに一堂に会し、山口県支部総会を執り行うことができました。場所は、周南市にある湯野温泉の旅館「紫水園」、総会前に早速、温泉を堪能しました。懇親会では、4年ぶりの再会ということもあって昔話に花が咲き、駒場小唄を斉唱するなど大いに盛り上がりました。集まった支部会員の方にも満足していただけたいと思います。

老若男女を問わず楽しめるのが当支部です。山口県出身者・在住者の積極的な参加をお待ちしています。

鳥取県支部



日 時 令和5年11月25日（土）
 開催場所 倉吉シティホテル
 本部派遣 野口 恵一 先生
 参加人数 9名
 実施事項 令和5年度 鳥取県支部総会・懇談会
 幹事・報告者 門脇 互（製糸S54）

<幹事のコメント>

毎年、出席者がほぼ固定されている状況なのですが、無理をしないでこの状況を維持しつつ支部総会と懇親会を開催していくことを確認するなど、有意義な意見交換ができました。

野口先生からは大学の近況等お話いただきました。懇親会では、野口先生からお話のあった「農工大創基150周年記念事業」に合わせて、鳥取県支部会員有志で東京に行く話も飛び出すなど、大変前向きで楽しい会となりました。

現在、鳥取県に在住で鳥取県支部からの連絡が無い皆様からのご連絡をお待ちしています。E-mail:wkado2006@yahoo.co.jp

徳島県支部



日 時 令和5年10月28日（土）
 開催場所 徳島市両国本町 創作ダイニング光
 本部派遣 齋藤 徳彦 同窓会事務局長
 参加人数 4名
 実施事項 令和5年度 徳島県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 事務局 小杉 純一郎（林学S63）

<幹事のコメント>

今年には本部から同窓会事務局の齋藤事務局長にご参加いただき、大学の近況などについて教えていただきました。同窓会ホームページ上の「交流ラウンジ」コーナーについても情報提供いただき、今後徳島県支部の情報や活動報告など、取りあげてもらえるよう発信していきたいと考えております。懇親会では大学時代の思い出や皆さんの近況などで話が弾みました。参加いただいた皆さんのおかげで、楽しく有意義な同窓会となりました。

長崎県支部



日 時 令和5年7月22日（土）
 開催場所 「観光ホテル 八千代」（諫早市）
 参加人数 11名（+ 委任状提出 26名 = 計 37 名）
 実施事項 令和5年度 長崎県支部総会・交流会
 幹事・報告者 大内 直史（農学S62）

<幹事のコメント>

長崎県支部では総会を4年ぶりに集合方式で開催し、提案した議案は一部修正を含めて承認頂きました。

総会終了後の久々の交流会では、S41卒からH19卒まで幅広い参加を得て、大学時代の思い出話やそれぞれの近況など、和やかに歓談しお開きとなりました。

後日、全会員への総会結果報告として、新体制紹介や会員の近況報告、支部に関する規則（改正版）を添えて支部通信R5夏号を作成し送付しました。

熊本県支部



日 時 令和5年7月29日（土）
 開催場所 KKRホテル熊本
 参加人数 23名
 実施事項 令和5年度 熊本県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 永山 裕治（環保H1）

<幹事のコメント>

新型コロナが5類に移行し、本県支部総会も普通に開催することができるようになりました。一方で、開催した7月下旬頃に催される夏祭り等のイベントも復活したため、比較的若い会員の出席が少なくなりました。

当支部会員の中から、この度、石島嶺氏（農学S33）が高齢者叙勲瑞宝小授章を受けられましたので、氏を囲んで祝杯を上げました。

なお、支部の事務局を担う県庁在職者が残り数名となってきたため、会則における事務局の所在地を「県庁内」から「県内」に改正しました。

大分県支部



日 時 令和5年11月18日（土）
 開催場所 イタリアンカフェレストランホルトガーデン（大分市）
 本部派遣 岡田 洋平 先生
 参加人数 16名
 実施事項 令和5年度 大分県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 川ノ上 実（生産H12）

<幹事のコメント>

大分県支部では、8年ぶりに大学から岡田先生をお招きして開催しました。

先生より大学の近況をご紹介いただきました。母校の時代を先取りした多種多様な取組に驚き、そして、変わらないこともあることに懐かしみながら、話が弾み、大いに盛り上がった同窓会になりました。

宮崎県支部



日 時 令和5年11月25日(土)
 開催場所 ホテルニューウェルシティ宮崎
 参加人数 13名
 実施事項 令和5年度 宮崎県支部総会・懇親会
 幹事・報告者 川越 研太(機械シスH23)

<幹事のコメント>

総会では、前支部長の池田さん(林学S49)から、農工大学の宮崎にまつわる貴重な資料を提供・説明して頂きました。懇親会では、会員の柳田さん(電情H8)が経営する柳田酒造の麦焼酎「青鹿毛」が、バリのKuraMaster2023においてプレジデント賞を受賞したことを祝して、受賞ボトルで乾杯し今後の活躍を祈念しました。その後は、会員相互に近況報告や昔話で盛り上がりしました。最後に今年初参加の黒岩さん(共同獣医R4)に締めをいただき、次年度の再会と参加者増を誓って散会しました。

鹿児島県支部



日 時 令和5年11月11日(土)
 開催場所 黒豚料理 寿庵
 本部派遣 村上 尚 先生
 参加人数 14名
 実施事項 令和5年度 鹿児島県支部総会・交流会
 幹事・報告者 長谷川 信幸(製糸S54)

<幹事のコメント>

総会では、村上先生から母校の近況、創基150周年事業のことなど報告いただいた後、事業計画や支部長の交替、次期代議員候補の選定などを協議し、平成30年の慶弔規定制定後初めての適用となった喜寿を迎えた会員(上原氏、二俣氏)お二方への記念品贈呈を行いました。

その後交流会では久しぶりの“飲ん方”で旧交を温めることができました。次年度は相当数の参加会員増が期待できそうな予感を感じながら会を閉じました。

同好会だより



多くの同窓生の皆様は、クラブ活動OB会・企業内同窓会・同好のサークル等の活動を通じて交流を深めていらっしゃると思います。同窓会ではこういった活動を支援しています。同好会の登録をしてさらなる活動につなげてみませんか。詳しくは同窓会HPをご覧ください。

NEW 風早会(東京農工大学学友会ヨット部OBOG会)



2023年7月14日に新同好会として承認されました。

風早会は農工大ヨット部OBOG、150名以上からなる団体です。本年に創立57年目を迎えます。学生ヨット部員に対する物心両面の支援、会員間の親睦と交流の場・輪を広げることを目的として活動しています。

昨年度は新体制の役員のもと、現役部員の練習支援、安全面のサポート、ヨット備品購入支援等を実施しました。詳細は「農工大ヨット部」でウェブ検索して風早会HPをご覧ください。学生の活動報告(インカレ、学園祭模擬店、新入生試乗会)をはじめ、有志OBによる新救助艇「風早」の贈呈、OBOG試乗会、総会・忘年会など様々なイベントを掲載しています。これらは風早会会員向けのメーリングリストでもお知らせしています。登録希望の方はkazahaya-kai_secretariat@googlegroups.comにご連絡ください。

報告者 高橋 俊哉(生命H11)

NEW 農工大軽音楽部OB会



2023年11月25日第1回軽音楽部OB会開催。国立「はっほん」での映像をYouTubeにアップしています。これを機会に、OB&OGの皆様との音楽を通じた輪を広げていきたいと思っています。このYouTubeをご覧になったOB&OGの皆様! 私たちにご連絡いただくと嬉しいです。何卒よろしくお願いたします。

報告者 菅野 茂樹(織工S49)

農工音楽祭



ありんこの家

学園祭期間中の11月11日、コロナで開催できずにいた第10回農工音楽祭を4年ぶりに対面開催した。機材は軽音学部のお世話になった。軽音学部のサポートなしには開催できず深謝している。令和5年度で定年退職される新井克彦・副部会長の現役最後のステージになった。ジャパニーズ・ロック、プリティシユ・ハードロック、ジャパニーズ・シティポップスの演奏が行われた。学園祭期間中だったので、一般の方の視聴も多数あった。同日、学園祭企画のアマバンコンサートに「ありんこの家」が出演した。

報告者 佐藤 俊幸 (共同獣医学科・教授)

地域再生・地域活性化に東京農工大学の知的資源を活かすネットワーク

令和5年11月18日(土)農学部本館にて、蓮池安彦氏(獣医H10)による「多摩地域における高濃度PFAS汚染と住民運動」の講演会を行いました。蓮池氏は、社会医療法人社団健生会の理事として、地域医療活動に従事されています。PFAS汚染問題では「多摩のPFAS汚染を明らかにする会」に参加、多摩地域800人の血液検査に当たり、医療従事者として重要な役割を果たしてこられました。この問題の所在、発生の広がり防ぐために医療従事者として努力されてきた経験について講演いただきました。

なお、本会にご興味のある方は、淵野fuchino@cc.tuat.ac.jpまでご連絡下さい。

報告者 淵野 雄二郎 (農学S43)

東京農工大学技術士会



講師の飯田喜章氏と古屋貴章氏

農工大学技術士会も、創立から9年となり、2024年1月24日現在、会員数は81名です。

毎回、農学部系と工学部系の会員から講師をお願いして、技術専門家としての経験/知見を講演していただいています。国家資格である「技術士」は現場経験を問われる資格ですので、講演は臨場感のあるハラハラ、ドキドキの御話で、毎回盛り上がっています。毎年、年初頭の総会と、夏の時期の例会を行い、メンバーの親睦・技術交流をはかっています。令和5年度は外部講師もお呼びして、武蔵野荘で講演会を行いました。鋭い質問が飛び交い、技術専門家集団の興味を刺激したようです。次回は現役学生にも声をかけて、技術士の役割を感じてもらいたいものであると企画しています。

報告者 会長、吉原 伊知郎 (化工S50)

農工大同窓会イノベーション研究会

令和5年11月3日に小金井動物救急医療センターの講演会と見学会を行いました。本講演では「いかに伴侶動物の健康寿命を延ばすか」というテーマに絞り、腸内細菌叢を標的とした治療や、中毒物質・新薬とはどんなものがあるか、またその対処方法等を本学の大森啓太郎先生、福島隆治先生にご紹介いただきました。小金井動物救急医療センターは、府中キャンパスの動物医療センターに続き、より高度な獣医療の提供をめざし、2022年11月に開院しました。一大学に2つの動物病院の設置は、国内大学では初めての事例となります。学内2つの動物医療センターと地域病院との連携により、犬猫の救急医療のトータルケアを推進していきます。

報告者 菅野 茂樹 (織工S49)

馬術部後援会



令和5年6月に後援会誌「わかこま」39号を発行

▶7月17日に馬術部後援会総会を武蔵野荘にて開催(後援会参加20名)総会後は、6月の関東学生馬術競技大会の報告会として現役学生との懇親会を行った。

▶現役学生の活躍は目覚ましく、以下の成績を上げた。

・関東学生・総合馬術競技で団体第4位及び全日本学生大会への5人馬の出場枠を確保。

・11月の全日本学生・総合馬術競技では61年ぶりの団体準優勝。人馬ともにレベルの高い全国の私学を相手に、快挙を達成し、農工大の名を全国に知らしめることができた。

報告者 黒田 泰輔 (獣医H17)

東京農工大学ワンダーフォーゲル部OBOG会



【総会】2023.6.25(日)創部60周年を記念し農学部・本館・講堂にて開催。会の名称をOBOG会とするほか、活動費と遭難対策基金に分けて資金管理するなどの規約改訂、役員改選を行いました。総会後、懇親会を開催。創部期メンバーから現役学生まで、幅広く61名が集まりました。当日午前中には、JR東小金井駅～工学部～多摩霊園～浅間山～農学部までの約10kmウォーキングも併催しました。

【学園祭ハイキング】2023.11.11(土)「農工大同窓会記念林」を経て小仏城山・高尾山を巡り、夕方に農学部学園祭でワンゲル部「玉こんにゃく」を食べ、夜は国分寺南口の懐かしい居酒屋を訪ねたり、農工大満喫の1日でした。

※ワンダーフォーゲル部OBOG会のホームページも是非ご覧ください。

<https://obog.tuatwv.com>

※ワンダーフォーゲル部OBOG会事務局へは下記メールアドレスからご連絡ください。

obog@tuatwv.com

報告者 安藤 隆生 (林学S58、OBOG会長)

クラス会だより



クラス会やOB・OG会開催のため、会員名簿が必要な方は同窓会ホームページ「入会・会員情報」の「会員情報提供について」をご参照いただき、同窓会事務局宛てにご依頼ください。クラス会開催後は、是非ご報告ください。農工通信と同窓会ホームページに掲載させていただきます。

昭和51年入学・55年卒業 機械工学科、生産機械工学科



日時 令和5年5月20日(土)
開催場所 ニューオータニイン 東京
クラス(卒年) 機械工学科、生産機械工学科(S51入学あるいはS55卒業)
参加人数 22名
実施事項 お食事会&懇親会
幹事・報告者 田中 隆、坂根 弘史、中村 裕一朗・大沢 洋

<報告者コメント>

卒業後40年ぶりに再会した昨年に引き続き、今年もクラス会を開催しました。学生時代の写真、海外在住者などからの便りを紹介後、メインは全員によるフリースピーチです。昔の話、今の話はとても面白く、かつ刺激になります。現在、同級生70名がEメールで繋がっています。気のあった者同士で集まり旧交を温めています。古き良き友はありがたいです。今回は一息入れて3年後の2026年の開催を予定しています。

植物防疫学科昭和47年入学及び昭和51年卒クラス会



日時 令和5年5月22日(月)～23日(火)
開催場所 熊本市、阿蘇地方
参加人数 14名
内容 観光(熊本城、水前寺公園、阿蘇火口、大観峰、草千里)
見学(熊本地震震災遺構東海大学農学部、歴史的農業土木施設鼻ぐり井手)、懇親会
報告者・世話人 田中 良典、金子 英一(植防S51)

<世話人コメント>

コロナ禍で4年ぶりに開催したクラス会、前回の長野開催に続いて2回目の地方開催でした。多くのメンバーが関東在住で、はるばる九州まで来てくれるだろうかと不安でしたが、出席率は50%を超え世話人として安堵しました。

全員古希を過ぎていますが、窮屈なスケジュールにもかかわらず、皆元気に時間通り動いてくれました。夜の懇親会では、流石に酒量は落ちたものの、賑やかな宴会となりました。2次会も大半が参加

し、夜遅くまで話し込みました。

2日間とも天候に恵まれ、阿蘇火口も数年振りで立ち入り禁止が解除される幸運もあり、良い旅ができたこと皆満足してくれたのではないかと思います。

今回は茨城開催です。参加者がさらに増えることを期待しています。

農学部 農業生産工学科S44年卒 クラス会



日時 令和5年5月29日(月)～30日(火)
開催場所 保養施設 熱海リフレッシュセンター
クラス(卒年) 農工S44
参加人数 16名(内、夫人2名)
幹事・報告者 藤木 信秀、日下 康彦・加藤 誠(農工S44)

<報告者コメント>

コロナ禍で延び延びになっていましたクラス会で、参加者が多くありました。今回は、ピエンチャンに住んでおられ、帰国されました島崎一幸さんがご夫妻とともに出席されました。集合、夕食後、近況などを歓談し、就寝。

明るく日、熱海の別荘地の始まり頃、政・財界で活躍した、“海運王”ともよばれた、“内田信也”により大正8年に建てられた飛雲閣を訪ねました。大正・昭和のロマンあふれる日本・中国・欧州の建築様式を融合させた名邸(飛雲閣)は、昭和22年からは旅館として利用され、宿泊客には、山本有三、志賀直哉、谷崎潤一郎、太宰治、舟橋聖一、武田泰淳などがおり、日本を代表する文豪に愛されました。古き日本文化の香りを楽しみました。

農工大農業生産工学科昭和51年卒同窓会



日時 令和5年6月2日(金)
開催場所 静岡県沼津市 KKR沼津
クラス(卒年) 農工S51
参加人数 12名(内1名奥様)
実施事項 夕食会 見学等
幹事・報告者 野田 耕一・松井 崇(農工S51)

<報告者コメント>

コロナ禍により、4年振りの開催となりました。幹事は野田さん。やっとの思いで開催にこぎつけ、場所は静岡県沼津市です。

台風の悪天候ではありましたが、久々に級友と夕食を共にしながら思い出話や近況報告などで楽しい時間を過ごしました。翌日は、台風一過の晴れ間のもと、沼津御用邸を拝観散策した後、それぞれ帰路につきました。

ただ、台風による新幹線の運休で参加をあきらめざるを得ない者、早く帰路についた者がでてしまい、少し残念でした。今回は神奈川県で開催。元気で多くが集まれることを願い報告とします。

昭和55年卒業 東京農工大農業工学科同窓会



日 時 令和5年6月23日(金)
 開催場所 山形県かみのやま温泉 古窯
 クラス(卒年) 農工S55
 参加人数 20名
 幹事・報告者 富士村・小西・鈴木

<報告者コメント>

昨年10月の伊豆長岡温泉に引き続き、今年の同窓会は、富士村が幹事となり「かみのやま温泉」で開催された。近年は、コロナ禍で令和2年は中止したが、同3年は秋田県男鹿半島と、毎年同窓生の出身県内の温泉地を会場として同窓会を行っている。宴会場では毎年恒例となった鈴木(本人)の沖縄三線と津軽三味線の演奏に対し「年々腕を上げている」と3度目の参加となった同伴夫人からお褒め頂いた。本来であれば、山形県出身の鈴木(本人)の妻も同伴すべき処、これら演奏が要因で参加不可となった。宴会終了後は、一室にて深夜まで飲み会が続いた。来年の同窓会は、関西方面で開催予定である。

農業生産工学科昭和45年頃卒業生クラス会

日 時 令和5年6月23日(金)
 開催場所 京王永山 竹取の湯
 クラス(卒年) 昭和45年卒業(中心)
 参加人数 7名
 実施事項 近況報告、次回日時場所幹事選定
 幹事・報告者 宮里 哲郎(農工S45)

<報告者コメント>

コロナの影響で2年ぶりのクラス会となり、幹事回り持ちで今回は東京都の住人が担当でいろいろと検討した結果、京王線の永山駅隣接の竹取の湯で行いました。会員全員の都合のいい日がそろわず結果的に7名の参加者に留まりましたが、近況を報告し合い、有意義な楽しい時を過ごすことが出来ました。会員2名の死亡が報告され黙祷しました。

農学部S39年卒同期会



日 時 令和5年6月23日(金)
 開催場所 農工大50周年記念ホール
 クラス(卒年) 農学部S39
 参加人数 28名(卒業者は131名)
 幹事・報告者 上田 淳治、板橋 久雄(農学科)ら9名

<幹事のコメント>

卒後30年の節目から始まった3年ごとの同期会はコロナ禍で延びていたがようやく7回目を開催。最近の逝去者への黙祷を捧げた後、

「地球規模での諸課題を乗り越え循環型社会の実現」に取り組んでいる本学の現況がパンフで紹介された。乾杯後、歓談、各人のスピーチで旧交を暖め、互いの健勝をたたえ合い、最後は「色の黒いやつ」など各学科の伝統歌の合唱で盛り上がった。可能ならばと3年後の再会を期して散会しました。

フォークダンス部OB会行いました。



日 時 令和5年6月24日(土)
 開催場所 東京駅八重洲側某居酒屋において
 参加人数 12名
 幹事・報告者 古川 誠(環保S52)

<報告者コメント>

コロナ前は5年連続でOB会を行っていましたが、しばらく中断後、久しぶりに開催しました。

今回、パートナー校の白梅学園OGの方々も多く参加して頂き、楽しく時を過ごすことができました。総勢12名の参加がありました。皆さん、学生時代とあまり変わっておらず、卒業後45年ほど経過しましたが、一目見てそれとわかりました。

フォークダンス部では当時、夏期に群馬県片品村などで合宿を行っており、当時の思い出やその時に懇意になった方々の話など、盛り上がりました。

来年もOB会を行うこととなりましたので、奮ってのご参加をお願いいたします。

昭和61年度林学科同期会



日 時 令和5年9月16日(土)～18日(月)
 開催場所 コンチネンタルホテル府中
 クラス(卒年) 林学S61
 参加人数 12名
 幹事・報告者 木村 洋(林学S61)

<幹事のコメント>

農工大の地元である府中にて同期会を行いました。国分寺で「すた井」を食べ、各人の下宿先を回りながらその後農工大に寄り校内を散策?樹木の成長に我が年輪を感じたのを覚えてます。夜は、府中にて大宴会になりました。(皆様良く飲むね～?飲み放題にして良かった!)卒業以来の再会した方も居ました。

ただ、話すと30年以上経っているにも関わらずついこの間まで研究室かなんかで会っていたような気分でした。あらためて元気に再開できるようにと散会いたしました。

第7回 電気工学科一期生同期会 (昭和41年卒)

日 時 令和5年9月30日(土)
 開催場所 梅の花 (東急吉祥寺店9F)
 参加人数 13名
 幹事・報告者 田中 盛博、立川 道雄(電気S41)

<幹事のコメント>

2020年5月に予定していた同期会、コロナで延期、5年振りにやっと再開出来ました。

開宴に先立ち2年毎に開催されてる同期会、今後如何するかについて相談しました。色々な意見が出て…約30分、今まで通り実施、次回日時・場所・幹事を決めて開宴となりました。前回参加者は18/37人、体調不良1人で、外出は困難等で参加者は減って来ました。今回は案内をメールと郵送で、返信ハガキで近況報告をして貰い参加出来ない仲間の状況も皆で共有出来ました。2年後、又元気で再会出来ることを願い散会しました。

製糸学科昭和46年卒クラス会

日 時 令和5年10月14日(土)
 開催場所 大阪、中華料理「徐園」
 クラス 製糸S46
 参加人数 13名
 幹事・報告者 田中 宣廣、関 尊敏、藤原 洋美

<幹事のコメント>

今回、5年ぶりとなるクラス会を大阪で初めて開催することになり、参加人数がどれほどか心配しましたが、関東、北陸、九州から13名の参加がありました。

5年ぶりに再会する人、卒業から初めて参加の人、また、すぐに顔を思い出せない人もありましたが、話が進むにつれ、卒業当時の世界に引きもどされ、半世紀以上過去にさかのぼることができました。あつという間に時間が過ぎ、最後に、当クラス唯一のマジシャン(三木さん)がマジックを披露してくれました。

今回は1年後に東京で開催する予定です。今回参加できなかった方たちも来年はぜひ参加されることを願っています。

それまで皆さん健康に気を付けて元気な顔で再会しましょう。

志緑会 (農業生産工学科S46入学) 同期会

日 時 令和5年10月20(金)～21日(土)
 開催場所 埼玉県川越市
 クラス(卒年) 農工S46入学
 参加人数 13名
 実施事項 近況報告、懇親会、川越(小江戸)散策
 幹事・報告者 馬場 一秋(農工S50)

<報告者コメント>

我々の学年は、ほぼ毎年同期会を行ってきましたが、さすがに令和2年からコロナで中断。今年4年ぶりに開催できました。

今回は「翔んで埼玉」の旅で、加藤誠名誉教授をご招待し、川越市に13名が集合しました。遠くは宮崎、鳥取からも参加、入学時から伝統の結束の良さは維持されています。直前に参加予定の1名が急逝というアクシデントがありましたが、追悼の意味を込め、懇親会はその思い出で盛り上がりました。

翌日は小江戸川越の名所、時の鐘や菓子屋横丁などを日本人より多い外国人観光客に交じて散策し、喜多院で集合写真。最後は名物ウナギ料理を天保3年創業の老舗店で賞味し、次回、宮崎での再会を決定し散会しました。

生産環境工学コース平成14年卒業同窓会

日 時 令和5年10月28日(土)～29日(日)
 開催場所 観光 出雲大社、稲佐の浜、福頼棚田、糸原家
 懇親会 かたくりの里 たなべ
 クラス(卒年) 地生H14
 参加人数 5名
 幹事・報告者 由利 佳菜子、傍島 裕人(地生H14)

<報告者コメント>

ドラマVIVANTのロケ地として、人気沸騰中の鳥根県で、同窓会を開催しました。おそらく、同窓会の開催は15年以上ぶりでした。

元々、我々のクラスは鳥根県出身が2名おり、両名とも現在も鳥根県に在住。この4月にもう一人、鳥根県へ赴任することとなり、県外から2名の参加を得て、同窓会の開催という運びとなりました。

VIVANTで有名になった「たたら製鉄」の跡地は棚田として活用され、標高の高いこの地域でできたお米は美味しく、仁田米としてブランド化されています。道中、圃場整備の手法やため池の改修方法、鳥根県の土質の話題など、学生時代より農業土木について語り合う二日間となりました。

クラスのLINEグループを作りました。ぜひ、連絡ください。

第4回義寮11号室 同室会



日 時 令和5年11月8日(水)
 開催場所 湯の山温泉(三重県・三重郡菟野町)
 クラス S37入学(化学・機械・電気)
 参加人数 4名
 実施事項 懇親会
 幹事・報告者 瀧上 紀吉(機械S41)・立川 道雄(電気S41)

<報告者コメント>

コロナで中断していましたが5年振りに再開しました。名古屋駅「銀の時計」に集合、近鉄でホテルに向かいました。初回一伊豆(三養荘)、2回一別府、3回一越後湯沢と続いています。

当時工学部西ヶ原寮は1年次だけ大部屋で5人、1人は連絡が出来てません。2年次からは2人部屋になりました。翌日御在所ロープウェイで紅葉狩りの予定でしたが霧で断念、ホテル到着後から退出までずっとmeetingでした。来年は福井で越前カニをと決まり名古屋に戻り散会しました。

農芸化学昭和46年入学生クラス会



日 時 令和5年11月10日(金)
 開催場所 東京都府中市(IN VINO VERITAS/サングリア)
 クラス(卒年) 農化S46年入学
 参加人数 22名
 幹事・報告者 田中 規夫・寺岡 葉子(農化S51)

<報告者コメント>

卒業以来、初めての全員に声をかけてのクラス会でしたが、22名の同級生が遠くは秋田、新潟、静岡、大阪、長崎から駆けつけてくれました。農工祭に合わせて農学部正門前に集合して農工祭や本館、1号館、農場、馬場などを見学、その後、大國魂神社近くのイタリアンレストラン、サングリアで懇親会となりました。卒業以来48年振りに再会する同級生も多く、初めはなかなか顔が分からない人もいましたが、少し話をすると昔と変わらない姿がよみがえり、お互いに再会を喜び、昔話で大いに盛り上がりました。時間内では話し足りず、次回の再会を約してお開きとなりました。

第8回「7318会」入学50周年記念および古希祝



日 時 令和5年11月11日(土)
 開催場所 国分寺駅南口

クラス(卒年) 林産S48入学
 参加人数 14名
 幹事・報告者 前田 辰雄(林産S52)

<報告者コメント>

前回7年前のホームカミングデーに合わせて開催したが、その後はコロナ禍で延期になってしまった。

今回は入学後50年を迎えたことを記念するとともに古希祝(前後者も含む)も兼ね、農工祭の日程に合わせて開催した。久しぶりに農工祭を見学したが、模擬店や女子学生の多さには驚いた。

懇親会では「病氣自慢(〇〇の手術をした)、趣味の活動(文化面・運動面)、健康維持、家族の話題(孫等)」に加え、欠席者にもお願いした「近況報告」が中心話題となった。

入学時は35名だったが、連絡先が判明している29名のうち6名が鬼籍に入っている。入学直後に第一次オイルショックがあり就職困難の時代にも直面したが、古希を迎えるまでの50年間で幾多のハードルを乗り越えて生き延び、国内外の多様な分野で活動できた体験や支えてくれた家族への感謝を聞くことができた。

E A 昭和58年同窓会



日 時 令和5年11月11日(土)
 開催場所 CANTON8銀座
 クラス(卒年) 農工S58
 参加人数 17名
 実施事項 同窓会の開催、連絡先名簿の作成
 幹事・報告者 太田 和男、南木 好樹・圓山 満久(農工S58)

<報告者コメント>

昭和54年4月からの1学年をともに学び、昭和58年3月以降に卒業した33名のメンバーでE A 昭和58年同窓会を構成。還暦も過ぎ、元気なうちに同窓会をやるうという声をきっかけに、久しぶりとなる同窓会を開催した。同窓会の再起動を主眼としたため、銀座を会場としたにもかかわらず、三重、岐阜、静岡、山梨、栃木、茨城、埼玉、千葉、神奈川から17名が参加。顔を見れば昔に戻り、近況を報告し合うなど楽しいひと時を共有することができた。次回以降、遠方のメンバーにも配慮した日程、場所等を検討することとし、来年の再会を期して解散した。

工業化学科大野研同窓会



日 時 令和5年11月19日(日)
 開催場所 喫茶店 GUCHI(グチ)
 幹事・報告者 伊王野 耕二(工化S39)

<幹事のコメント>

昨年迄、先生の墓参と懇親会は鎌倉で行っていたが、今年は日本橋人形町のレトロな喫茶店で開いた。この店のオーナーは大野研の卒業生、学生時代は馬術部。店内の落ち着いた雰囲気には、壁に飾ってある乗馬に必要な道具類も一役買っている。

今回の参加者は、農工通信又は同窓会HP「クラス会だより」を見て初参加した人が4人、元大野研助手の佐藤さん、大野先生の長女の陽子さんを含めて総勢18名。この会が長く続いているのは、生前の先生のお人柄に惹かれてだと思ふ。当時毎年正月3日、目黒の先生宅で卒論学生（4年生）と翌年の卒論学生（3年生）及び大野研卒の先輩たちが集まってきて、先生御夫妻を囲んで夜遅くまで雑談したことを懐かしく思い出した。今回の一番の若手はS59年卒。来年も開催予定、大野研卒の方たちは是非参加して下さい。（大野研の原点は天然高分子=セルロース=綿、皆に綿の種を配りました。次回開花報告を期待!）

農業生産工学科 S42卒業 同期会



日 時 令和5年11月27日（月）～11月28日（火）
 開催場所 熱海伊豆山 ホテル水葉亭
 参加人数 7名
 実施事項 祝傘寿 懇親会
 幹事・報告者 栗原 績、鈴木 誠一郎・杉谷 寛邦（農工S42）

<報告者コメント>

今回の同期会は静岡県在住の栗原幹事の紹介により、相模灘を望む熱海伊豆山のホテル水葉亭にて開催されました。前回「皆元気な内に」ということで翌年も開催する予定でしたがが新型コロナウイルスの影響により4年ぶりの開催になりました。

遠くは九州からの出席もあり、顔を合わせれば昔の学生時代に戻り、全員が節目の傘寿を迎えることになる喜びを分かち合いました。部屋での二次会では有志により持ち込まれた自慢の銘酒を味わい、少人数ながら様々な話題で夜遅くまで盛り上がりしました。

次の幹事には元グリークラブで共に活動した石川氏と杉谷に決まり、2年後の2025年に再会することを期し一夜の余韻を残しつつ散会しました。

第4回 昭和53年生産工学科同窓会



日 時 令和5年12月2日（土）
 開催場所 汐留シティセンター（北大路 新橋茶寮）
 クラス（卒年） 農工S53
 参加人数 15名
 幹事・報告者 佐藤 憲一（農工S53）

<報告者コメント>

2018年の第3回の同窓会以降、コロナ禍で開催を延期していましたが、ようやく5年ぶりに第4回の同窓会を開催しました。北海道や徳島など遠方から15人が集い盛大に楽しく行うことができました。卒業後45年を迎え、久しぶりの再会で風貌など変わっている仲間もいましたが、話をすれば昔の大学時代の雰囲気のままです。1次会、2次会と楽しい会話は尽きることがなく、楽しい時間を共有できました。来年は喜寿を迎える年代となることから、2泊3日でねぶた祭りや函館夜景観光を計画し、再開を約束しての散会となりました。

林学科昭和45年等入学同期会



日 時 令和6年3月12日（火）～13日（水）
 開催場所 KKRホテル熱海
 クラス（卒年） 林学S45入学等
 参加人数 16名
 幹事・報告者 北原 健朗、片岡 辰幸、岡林 良一、難波 伸幸

<報告者コメント>

前回の府中からコロナを挟み7年ぶり、今回は熱海での宿泊開催となりました。卒業以来初めて顔を合わす仲間もあり、北は岩手・秋田、南は長崎・大分など各地から総勢16名が参集。昔の美男子今や70過ぎの好々爺、顔と名前の不一致は最初だけ。差し入れの高級銘酒に酔いしれあつというまに昔の大学時代にタイムスリップ。一次会二次会と懐かしく楽しい時間を共有できました。同期には九州出身者が多いことから、次回は九州での再会を期し一夜の余韻を残しつつの散会となりました。

卓球部OB・OG「YG会」開催しました



日 時 令和6年3月17日（日）
 開催場所 新橋亭 新橋店
 クラス（卒年） S51年～S54卓球部中心
 参加人数 16名
 幹事・報告者 清水 洋一（林産S53）

<報告者コメント>

学長杯創設年代を含め卓球部OB・OG「YG会」を開催しました。新潟、福島、愛知からの参加も有り総勢16名（信大1名）となりました。約50年振りの方も多く顔と名前が一致せず確認しあう場面も多々ありましたが直ぐ打ち解けての会合になりました。苦労して開催した学長杯がコロナの影響を乗り越え開催され46回となる話題、ビデオレター公表等々あつという間の3時間でした。最後に卓球部の更なる繁栄と参加者の健康と再会を祈念して終了しました。ご協力頂いた方々に感謝申し上げます。ご報告とします。
 ※下段左から 大里、矢幅、富原、鈴木、山屋、井上 上段左から 大久保、小窪、水口、西村、須賀、小松、清水、林、湯川、安藤（敬称略）

叙勲受章にあたり

令和5年の叙勲

叙勲受章にあたり

西川 公也（農工S40・元衆議院議員）

令和5年秋の叙勲で旭日大綬章を賜り、11月8日皇居正殿で天皇陛下より親授いただき、受章者14名を代表してお礼の言上を申し上げます。

この栄誉を賜りましたことは、ひとえに政治家としての活動を支えてくださった方々のおかげであり、心から感謝いたしております。

本年は1月1日の能登半島地震により大変な被災になりましたが、一日も早い回復を願っております。またウクライナやイスラエルの戦争の終結を祈っております。

私は昭和36年4月東京農工大学に入学しましたが、学科はこの年に新設された農業生産工学科でした。

当時の日本は食料の生産が需要に追いつかず、いかに不足するコメの増産をはかるかという状況でした。

日本各地で水田を造成しようという気運の中で農業土木の面からこの意識を強くした時代でありました。

昭和40年3月の卒業と同時に、これまた新設された大学院修士課程に進みました。ここでも当時は新しい分野である土質工学を専攻し、土いじりの毎日を送りました。

クラブ活動は空手道部に入部し、4年間毎日道場の雑巾掛けに始まり、地味な基礎訓練のみの稽古でした。



新入生も数十名が入部しましたが、結局最後まで残ったのは4名でした。

昭和42年大学院修了とともに栃木県農務部に就職し、ほ場整備、農道整備、農業用ダムの建設に携わり、将来も本気で技術者として進もうと仕事に取り組みました。

その後、昭和53年秋に県庁を退職し、54年4月36歳の時地元の方々に推されて栃木県議会議員に初当選し、5期務め50歳の時に県議会議長に就任いたしました。

平成8年には衆議院議員選挙がこれまでの中選挙区制から小選挙区制にかわり、栃木県第二選挙区から自由民主党公認で出馬し、54歳で初当選を飾ることができました。以来6期18年勤めましたが、この間に農林水産大臣を2期務めることができました。その後安倍晋三内閣、続いて菅義偉内閣で内閣官房参与に任命され引き続き国政で仕事をさせていただきました。

国会議員としては主に農林水産行政に取り組みましたが、特にTPP（環太平洋経済連携協定）及び日本・EU貿易協定の成立には先頭に立って、まとめ上げました。また、郵政民営化担当副大臣としても難題の突破に取り組みました。

政治は時代の変化とともに常に改革を求められますが、その判断基準は将来にわたって如何に国民の幸せに継げていくかに尽きると思います。

今は、大部分の公職を離れて民間の相談を受けながら、些かなりとも社会のお役に立てればと活動をいたしております。

日常としましては、栃木県さくら市の自宅において読書と草川用水路の堤防を散歩しております。

どうぞお近くにお出かけの際は気軽にお立ち寄りいただければ幸いに存じます。

むすびに東京農工大学の発展と同窓生の皆様の大活躍をお祈りいたします。

叙勲受章に際して

矢口 芳生 (蚕糸S51)

令和5年春の叙勲に際し、瑞宝中綬章を拝受しました。齢70にして、公務員及び研究者としての生活の一つの良い区切りとなりました。

私は、大学院博士課程修了後（農業経済学専攻・農学博士）、1981年国立国会図書館に入館して調査及び立法考査局・調査員として17年間、1998年東京農工大学（農業経済学教室）に助教授・教授として11年間、2009年再び国立国会図書館に専門調査員（特別職）として4年間勤務しました。その後、農政調査委員会・客員研究員として3年間、2016年福知山公立大学に教授・副学長として5年間余を務めてきました。

農工大勤務時代は、学生・院生・教員とともに、国内外の農業・農村の現地に赴き、現場から問題提起と刺激を得て研究に励みました。そうした経験は国立国会図書館における立法活動にも活かす



ことができました。その成果は、『著作集』全8冊、単著書17冊、編著書10冊等にまとめてきました。

現在は福知山公立大学名誉教授、早稲田大学招聘研究員にあって、遅筆かつ細々ではありますが、農業経営経済学に関する執筆活動を続けております。最後に、皆様と大学のご発展を祈念し、受章の報告といたします。

瑞寶小綬章を受章して

花野 耕一 (農工S50)

令和5年春の叙勲において教育功勞により瑞寶小綬章を受章しました。これはひとえに皆様の永年に亘るご指導とご支援の賜であり、ここに深く感謝申し上げます。

私は東京農工大学大学院農学研究科（農業生産工学専攻）を昭和52年3月に修了し、1年間の大学院研究生を経て、昭和53年4月に東京都公立高等学校教員となりました。

都立の農業科の教員となって35年間の教員生活を過ごし、平成25年3月に定年退職をしましたが、最後の9年間は都立高校の校長職を務めさせていただきました。

校長として最初に赴任したのは、新設校である青梅地区総合学科高校（仮称）の開設準備室でした。99年続いた東京都立農林高等学校と30年続いた東京都立青梅東高等学校を発展的に統合して、新しく東京都立青梅総合高等学校を開校することは、大変な努力と情熱を必要としました。

閉校と開校を経験して、次に都内で一番古い農



業高校である東京都立農芸高等学校に赴任しました。農芸高校は教諭として最初に赴任した学校ですが、今度は校長として110年続いた伝統を守り発展させることに尽力しました。

このように、東京都内では校長としてその時々課題の解決に全力を尽くしましたが、一方で、全国農業高等学校長協会の常務理事、副理事長、

理事長を務めさせていただきました。

この間に手掛けたことは、日本農業技術検定の設立、全国農業高校収穫祭の開始、東日本大震災で被災した東北の農業高校の支援、全国農業高等学校協会の協会旗の制定、第2次全国農業高等学校アクションプランの策定などです。

東京農工大学出身者で高校の教員になる人は少ないと思いますが、私が教員を志すようになったのは二人の恩師との出会いがあったからです。一人は小学校から高校まで教わった新潟県新発田市剣道連盟の佐藤毅先生です。もう一人は東京農工大学剣道部で教わった伊藤金得先生です。佐藤先生は中学校の校長先生、伊藤先生は東京農工大学

の教授をなさっておられましたが、剣道はもとより人に教えることの面白さを教えていただきました。

平凡な人間でしたが、情熱をもって高等学校の農業教育に携わり、多くの人材を育て、農業高校の発展に貢献することができたと思っております。

現在、日本の農業は従事者の高齢化、減少の課題を抱えています。農業高校は、今後の日本の農業を支える人材の育成に欠かせません。これからも農業高校、農業教育のために尽力していきたいと思っております。

終わりに、東京農工大学、同窓会、同窓生の皆様のご発展をお祈り申し上げます。

交流ラウンジの紹介

同窓会ホームページは昨年リニューアルし、新たに「交流ラウンジ」コーナーを設けました。交流ラウンジでは、同窓生、在学生、教職員の活動、イベント報告を紹介しています。ここでは同窓会こうほう支援室（池谷）が取材した一部を紹介します。続きは是非「交流ラウンジ」をご覧ください。



タイトル	概要
人にも家畜にも優しい畜産業の持続的発展を目指して	アニマルウェルフェアと食糧安全保障の視点で研究に取り組んでいる農学部畜産学研究室の青木康浩先生へのインタビュー
うどん県の経験が晶析の研究に生きる －元理事長に聞く－	同窓会元理事長としても活躍下さった滝山博志先生。晶析の研究とうどんの関係とは。
【150周年記念事業関連】 新宿御苑共催企画「福羽イチゴ栽培」 －高橋さくら先生にお話を聞きました－	創基150周年記念事業の新宿御苑との共催企画の一環で、新宿御苑で今でも栽培されている「福羽イチゴ」の苗を譲っていただき、農工大の温室で育てている高橋さくら先生にお話を聞きました。
微細藻類でバイオジェット燃料を作る	微細藻類や光合成細菌などの海洋光合成微生物に着目して研究している工学研究院生命機能科学部門、田中剛先生へのインタビュー
八ヶ岳山麓に移住して植物と触れ合う毎日 －植物研究会OB／OGの会の活動拠点－	八ヶ岳に移住し、自然豊かな地で地元の自然観察サークルや地域活動に参加するとともに、OB／OGの活動拠点を提供している佐藤元昭と佐藤久江（田中）さんご夫妻へのインタビュー
家族を守りながら研究の道を歩む －2人の出産を乗り越えて－	二度の出産を経て職場に復帰し、現在新たな道を歩んでいる、手島美帆（石井）さんへのインタビュー
「菓楽」というお店と共に －東京から富山県に移住した同窓生－	富山県に移住して、雑貨や洋服、アクセサリ、スツール、安楽椅子などを販売しているお店「菓楽」を営んでいる岩崎朋子さんへのインタビュー
「農工大生大図鑑」の活動 －農工大大好き人間のご紹介－	農工大生の考え方や考えていることに焦点を当てて、農工大を紹介している上木康太郎さんへのインタビュー
真打昇進で落語道に磨きをかける －東京農工大学広報大使 立川小春志さんに聞く－	2023年9月に東京農工大学広報大使に任命された落語家の立川小春志さんへのインタビュー
激動の自動車業界で奮闘する	激動の自動車業界で研究を続け、社会人として農工大の博士課程で博士号を取得した小川史恵さんへのインタビュー
新型コロナウイルス感染症治療薬開発に取り組んだ同窓生	新型コロナウイルス感染症治療薬の開発に取り組んだ永松大樹さんへのインタビュー
野生の菌で発酵させるパンとビール	鳥取県の智頭町で野生の菌だけで発酵させるパンとビール作りをしている「タルマーリー」の渡邊麻里子（傍島）さんへのインタビュー
北海道の豊かな大地でワイン作り①	ブドウ作りから高品質のワインを手がける「平川ワイナリー」の平川敦雄さんへのインタビュー
国産大豆とにがりでお豆腐作り①②	国産大豆とにがりでお豆腐を作る「おとうふ工房いしかわ」創業者の石川伸さん、その息子さんご夫婦石川諒さんと石川麻利江（黒澤）さんへのインタビュー

退職にあたり

農学研究院教授 | 朝岡 幸彦



1995年4月から2024年3月まで29年間にわたってお世話になりました。1995年は学部・学科改組の年であり、一般教育部が廃止されて農学部地域生態システム学科環境教育学担当の助教授として着任いたしました。その意味では、学

科1期生と一緒に大学院修士課程、連合農学研究科博士課程を持ち上がり、学部生とともに多くの大学院生の指導をさせていただきました（学部生59名、大学院修士課程院生75名、博士課程院生40名を指導し、主指導教員として19名の博士学位授与）。

前任の室蘭工業大学から35年間、国立の理系大学に勤務させていただいたことは、私の研究スタイルやテーマに大きな影響を与えていただいたと思います。学生・大学院生との共同研究はもとより、大学内の先生方との交流から多くの研究成果や学びを得られたことを心より感謝いたします。引き続き白梅学園大学（小平市）の特任教員として近くにおりますので、お役に立てそうなことがあればぜひお声かけください。

農学部附属硬蛋白質利用研究施設 教授 | 新井 克彦（獣医 S56）



1981年3月に最後の4年制獣医学生として本学を卒業し修士課程（獣医病理学教室）に進学しました。その間に電子顕微鏡の指導を受けるために農学部附属硬蛋白質利用研究施設にお世話になったことが、その後の教員生活のきっかけとなりました。

修了後は東京医科歯科大学医学研究科博士課程（難治疾患研究所）に進学しましたが、在学中に本学に硬蛋白研の助手として迎えて頂き、その後39年間在職することになりました。学生時代はジャズ研究会に所属しギターを弾いておりました。教員になってからは教育や研究等に忙しくなかなか演奏の機会はなかったのですが、2010年頃から徐々に音楽好きな教職員が集まり始めて農工音楽祭なるものを開催するに至りました。同窓会に

は農工音楽祭（同好会）の設置を認めて頂いた上、開催のための援助も頂き感謝申し上げます次第です。研究や教育を取り巻く環境が年々厳しくなる中、心のオアシスとしての農工音楽祭はとても良い思い出になりました。

連合農学研究科教授 | 高柳 正夫



平成7年（1995年）4月に着任以来、生物システム応用科学研究科（BASE）に8年、農学部（農学研究科等）に8年半、連合農学研究科に12年半と所属を転々としながら29年間在籍しました。着任直後にはそれまで所属していた分子

科学研究所で行っていたレーザー分光による分子科学研究を続けておりましたが、農学部移籍のころから赤外分光や近赤外分光に多変量解析を組み合わせた実用分光分析の研究に移行しました。現在注目されているデータサイエンスの先取りのような研究だったこともあって、学内外の多くの方々と興味深い共同研究を行うことができました。特に平成14年度から実施されたCOEプログラム（代表、堀尾正鞠先生）、平成20年から農工大を中心にして実施された新学術領域研究（代表、畠山史郎先生）、平成21年度から実施された先進的植物工場施設プロジェクト（代表、荻原勲先生）に参加できたことは刺激的でした。教育でも、基礎教育から博士課程のお世話まで幅広くかかわらせていただき、充実して過ごすことができました。楽しく充実した教育研究の場を与えてくださった東京農工大学に感謝するとともに、今後の発展を祈念いたします。

工学研究院教授 | 篠原 和子



1999年4月に講師として着任してから25年が経ちました。当初は一般教育部解体直後で府中に研究室がありましたが、すぐに小金井に移転し、工学部・工学研究院の一員として、学部英語科目、学科

科目、大学院共通科目などを担当しました。専門の言語学は人文系のなかでは理系寄りと言われるますが、そのなかでもヒトの認知に関する実験研究を多く手掛け、工学系の先生がたとも研究上の交流が持てたことは幸いでした。事務方の研究支援の手厚さに幾度も助けられたこと、また農工両学部全学科の学生たちを教えたことなどが印象に残っています。

思い起こせば時代や環境の変化は大きく、中央線東小金井付近の「あかずの踏切」では自家用車で1時間も足止めされることもありましたが、今は高架橋です。メールを使わない教員がいた時代から、学生のAI利用への対応を考えるほどに世の中は変わりました。今後の社会変化にあっても、農工大がつねに力強く発展してゆくことをお祈りしております。

工学研究院教授 | 高橋 徹



1990年4月に工学部機械システム工学科に講師として着任してから34年が経過し令和6年3月末で定年退職を迎えました。この間、金属と合金の高温強度にまつわる実験的研究に携わらせていただきました。着任当時の小金井キャンパスには11号館以降の建物がまだなく、環境整備はまだまだだった印象が残っています。近年ようよう建物整備が進み大変結構なことでした。学生にとって魅力的であろう東門アーチやエリプスは携わられた教職員の尽力と同窓会・後援会による支援の賜物に違いありません。大学のスケールに由来する機動力と熱意にあ

ふれたスタッフが発展を強力に推進してきたことを礎とし世界的な研究大学となるようお祈り申し上げます。農工通信の新卒者情報、同窓会名簿がプライバシーの保護のために窮屈な感じとなったご時世で事務局各位もご苦勞様に存じます。OB・OGの皆様とそのご家族、東京農工大学教職員各位のご健勝・ご活躍を祈念申し上げます。

グローバル教育院教授 | 野間 竜男



1990年4月に東工大から工学部物質生物工学科に講師として着任し、以来34年間セラミック化学分野の教育研究に携わってまいりました。セラミックスの欠陥や微構造の制御が主なテーマでしたが、研究室から羽ばたいていった110名の学生さんと過ごした充実した日々の記憶は、私にとって大切な宝物です。あわせて、この間の諸先輩や同僚の皆様の温かいサポートに感謝しております。

2000年からは教育研究と国際交流の二刀流に挑戦し、500名を越す交換留学生の受け入れや日本人学生の海外留学を担当しました。海外出張の際、現地の企業で働く同窓生や大学で教鞭を執る留学生同窓生の皆様とお会いする機会が多く、その活躍は農工大の未来への希望を与えてくれました。また、農工大の人材育成力とグローバル展開力の強さに感じ入りました。今後も同窓生の皆様グローバルに活躍されることを楽しみにしております。

定年退職者のお知らせ

本学在職中に同窓会活動に多大なご協力をいただいた下記の先生方が、令和7年3月で定年を迎えられます。

打出 毅	農学研究院	教授	桑原 利彦	工学研究院	教授
金勝 一樹	農学研究院	教授	齋藤 隆文	工学研究院	教授
渋谷 淳	農学研究院	教授	田川 泰敬	工学研究院	教授
高田 秀重	農学研究院	教授	夏 恒	工学研究院	教授
千年 篤	農学研究院	教授	山下 善之	工学研究院	教授
林谷 秀樹	農学研究院	准教授	養王田正文	工学研究院	教授
船田 良	農学研究院	教授			

同窓生からの寄稿文

▶ 母校への思い

西田 和彦 (農学S36)

東京で暮らす長男がマンションを買ったというので見に行くことにした。都心から西の方になるという。西の方といえば母校のある府中に近いことから、この際見納めに母校を見てみたいと思い立ち、妻と上京した。

京王線府中駅に降り立つ。卒業して六十有余年、櫛並木の歩道をゆっくり学校に向かう。

正門の前に立つ。本館の時計台の塔は入学時に父と記念写真を撮った。

「いい学校ね」妻が言ってくれたのが何とも嬉しい。日曜日で閑散としていたことで思い出にふけることができた。

左手のグラウンド跡に思いを寄せる。当時わずかな仕送りで酒も満足に飲めなかった寮生活、焼酎をまわし飲みしたあとこのグラウンドに飛び出して何周か走り酔いを深めて議論に花を咲かせたものだった。

当時駒場寮があったところは跡形もない。

寮生は四年になると近くに下宿して勉強に専念することが多かったが、私は四年間寮生活を送った。腹をすかせて夜遅く残飯にありつくこともあった。

ところで今長野にいる次男の息子が高校二年生で、いまから受験したい学校の下見に奔走している。その彼が先日農工大学のオープンキャンパスに行ってきたといって農場実習製品“とまとじゃむ”をおみやげに顔を出した。

孫のいうにはいろいろな大学を見たが希望する農学系の大学では農工大が一番よかった。絶対入りたいと興奮して話した。

爺と婆はびっくり。もし入れたらこんな嬉しいことはない。

少し前に学校を見ている妻が「あんないい学校に入れたら車一台買ってあげてもいいからネ」と口走る。

母校は難関であるが、夢に向かって頑張ってほしい。私達老夫婦もしばらくは夢をもちつづけたいと思っている。(R5.10.2)



▶ コロナ禍で思った専門家の責任

鈴木 敏明 (農化S39)

私は配合飼料の研究所で実験動物、畜産動物の飼料開発に従事してきましたが、ウサギの飼料開発に関わった時、パストレラ マルトシダ (*Pm*) という細菌による呼吸器感染症に遭遇したことがあります。ある夏の日、種兔農場を訪問しました。ビニルハウスに多数のウサギが独立したケージに1羽ずつ収容されており、鼻汁を出して*Pm*感染が疑われる個体が目につきました。検査をしたところ、少数の陽性個体を見いだしました。ところが、妙なことに汚染個体の両隣りの個体に陽性例は殆ど見られなかったのです。その冬の訪問時に、同じような検査をしたところ、きわめて多数の陽性例が見い出されました。しかも、汚染個体から感染が順次広がったという感じでなく、かなり飛び離れて汚染が広がっていました。この現象は、一見不思議に見えますが、私には極めて明確に腑に落ちる現象だったのです。

「感染症—感染と免疫のしくみ」(C. A. ミムス著 甲野ら訳 講談社1,979) という本の中で、病原体が感染するには閾値があるという重要な指摘がありました。例えば呼吸器感染症であれば、病原体を一度に一定個数以上(閾値)呼吸器に取り込む必要があり、閾値を超えなければ感染しないのということです。上記のウサギの例は、夏はビニルが開放された環境では、汚染ウサギからの飛沫は希釈され、両隣りのウサギが取り込んでも閾値に達しなかったと考えられます。冬は、ビニルは閉じられ、飛沫はエアロゾルとなって空中に浮遊し、ウサギは閾値を超えた病原体を取り入れ易くなったと思われる。私は期せずして、呼吸器感染症というのはこういうことなのかと実感しました。

専門家がコロナ感染に関し閾値を説明するのを聞いたことがありません。しかし、感染成立のメカニズムについてのイメージを持つためには、閾値を理解することは重要だと思います。森や林や川岸を一人でマスクをしてジョギングや散歩する人は、自分の周辺に危険となるほど病原体が存在し、1個でもウイルスを取り込めば感染するかもしれないと思っているのでしょうか? 手指消毒も推奨されていますが、手指から閾値を超えたウイルスを取り込むことはよほど特殊なケース以外には考えにくいことです。コロナ感染の危険は、患者の飛沫を直接濃厚に浴びるか、エアロゾルが充満する閉じた空間に立ち入るか以外には考えにくいと思います。日本人は欧米人に比べて衛生面の行動は良く

も悪くも極端です。これがコロナの被害が少ないことに関係しているかも知れませんが、一方で、病院で親の臨終に立ち合わせなかったり、施設に入っている老いた親に会わせなかったりというひどい状況が現出しました。国民がコロナを正しく恐れるために、専門家の果たす役割は大きい筈です。警告を発するだけでなく、国民を啓蒙するように責任を果たすことを切に希望します。完

懐かしい私の大学時代

小嶋 桂吾 (製糸S42)

私は今80歳、私が東京農工大学に入学したのは1963年(昭和38年)、今から60年も前のことになる。当時転居に必須の「米穀通帳」を持って小金井市の西ヶ原寮の義寮4号室に入寮したことを昨日のここのように思い出す。和・衷・信・義の4棟があった。数日で寮食のクジラ肉の唐揚げにも慣れ寮友から麻雀を学び一人前の西ヶ原寮生になった。

その頃の日本は高度経済成長が始まった時期で1964年(昭和39年)の東京オリンピックに向けて建設ラッシュに沸いていた。中央線の高架化や東小金井駅の設置工事も始まり肉体労働も厭わぬ農工大生にとってアルバイトにこと欠かない状況であった。学生運動は比較的平穏な時期であったが、ベトナム戦争が激化しラジオからはピーター・ポール&マリーやジョン・バエズ等の反戦歌が流れていた。私は大江健三郎の小説を愛読した。

日本の産業構造は1960年(昭和35年)代になって軽工業から重工業(エレクトロニクスを含む)に転換しつつあった。一方、家庭にも少し余裕が出て、キモノブームで蚕糸・絹業に活気が出てきた頃でもあった。製糸機械の自動化が叫ばれ、片倉・グンゼ・日産等の会社が「新型の自動繰糸機」の開発にシノギを削っていた。

学生にとって最大の関心事は進路問題であろう。上級生から旧態依然とした製糸学科のカリキュラムが問題とされ批判が出たことがある。私も級友等とカリキュラムのあり方について議論したものだ。その甲斐あったか?外部から新しい教官が就任し、戦後アメリカから入った品質管理の統計手法、OR(オペレーションズ・リサーチ)、ゲームの理論等の新しい学問がカリキュラムに取り入れられた。

農工大の魅力は、教育内容が実学指向で学生が社会に出てからも現場の即戦力に役立ち評判がよく就職に有利であるところであろう。そのためには教育内容が常に時代に合ったものでなければならない。近年、本学が学部の学科や大学院の研究課程の大幅な改編を実施していることは、大いに評価できることである。

今般、東京農工大学は国が主導する「研究大学」に名乗りを挙げ、見事選定されたという。この際、本学

の明治初期からの伝統である「進取の気風」を思い起こし全学が一丸となって進めば、日本はもとより世界に誇る大学になる日が来ると思う。本学が創基150周年を迎えるにあたり、卒業生としてエールを送る次第である。



久しぶりに母校に集合した同級生

国会図書館デジタルコレクションで 曾祖父が農工大の大先輩と判明!

細村 弘義 (林産S45)

父母から聞いた先祖のことを思い出すのは、自分が後期高齢者になったせいだろう。特に父が「埼玉県庁に勤めていた」と言った曾祖父はどんな人で何の仕事をしたのかと気にかかっていた。偶々、国会図書館デジタルコレクションで全文検索可能な資料が約247万点に増加し、該当箇所がすぐ見つかるようになった(令和4年12月報道発表)ことを知った。

検索すると曾祖父の名前がある多くの資料が見つかった。最も古い資料「明治23年4月日本蚕業雑誌」で明治23年3月に埼玉県から一人だけ農商務省農務局蚕業試験場伝習生となり、同年10月同雑誌で同年8月修業証を授与されたことが分かった。曾祖父が29歳の時である。また、「明治34年度東京蚕業講習所一覧」に明治23年卒業生、「昭和4年東京高等蚕糸学校職員卒業生一覧」に明治23年養蚕学科卒業生としても名前があった。「東京高等蚕糸学校50年史」には、明治23年から蚕業伝習は地方養蚕伝習所等の教師養成を目的とすることに至り、科目を増加し程度も高め、募集人員も減じられたと記されている。

蚕業試験場から農工大への変遷は西ヶ原の東京高等蚕糸学校発祥之地碑、そして、農工大工学府正門近くの蚕糸科学教育記念碑と科学博物館内の略年史で確認できた。博物館には蚕糸業の展示があり蚕業試験場の錦絵も所蔵されている。

その後の曾祖父は東京顕微鏡院も卒業して養蚕家となり内国勸業博覧会や大日本蚕糸会品評会に出品して受賞し、児玉郡蚕種同業組合の評議員もした。そして、蚕糸業の興隆期から繁栄期における国の蚕糸行政に応じた埼玉県における施策の中で、明治36年から大正4年まで埼玉県本庄支所の蚕種検査員、蚕病予防吏員、蚕業取締吏員として名前があり、明治42本庄蚕病予防事務所職員時の写真も発見されて、父の言ったことが確認できた。

曾祖父が農工大の大先輩と知って驚いた。そして、埼玉県で蚕糸業に貢献したことを誇らしく思う。



「大正5年児玉郡蚕種業史」の蚕種製造家案内に載った曾祖父の略歴

悔いの多い、しかし楽しかった学生時代

伊藤 澄夫 (製糸S46)

私は、現在、糖尿病と向き合いながら生きている後期高齢者である。170世帯ほどの町内会の会長をして8年が経過している。平成30年のことであるが、台東区の浅草寺に「大わらじ」を奉納した。浅草仲見世通りの終点のところにある宝蔵門（小舟町という提灯が下げられている門）の内側（浅草寺境内側）に常設してあるので、機会があったら見てきてほしい。「山形県村山市奉賛会」という看板が掲げられている。わらじは、私の町内会の有志が製作したもので、一對、1トンもする大物だ。戦前から10年に1回更新奉納しているもので、今回で8回目であった。（次回は、令和10年の予定）当時、私も、アレ（阪神の監督用語）をかついで浅草の町を練り歩いた思い出の品である。

同窓会誌寄稿なので、私の学生時代のことに触れる。50年以上も前のことなので正確に記述できかご勘弁願いたい。

私は、昭和42年ど田舎山形から上京し、小金井公会堂での入学式に臨んだ。下宿先は、小金井市貫井南町だった。製糸学科は35名だった気がするが、ほとんどが首都圏からの学生であった。私は、毎日大学へは行ったが、教室ではなく、「櫛寮」の雀室へ通う日々で、本分である学業成績は、最低ラインで何とか進級し、卒業した。いまは亡き重松先生（平成25年没）は、学業や特に私生活面まで指導いただいた研究室の恩師である。12.3年前、研究室の仲間と旅行を兼ねて病床にある愛媛県へお見舞いにいったことも思い出として残っている。その同行した仲間のM君（旧姓高城）も平成28年逝ってしまった。麻雀の仲間、湘南から中古の車で来ていたT君は、特異な存在で、私のレポート作成を担っていた。今は、音信不通である。鳥取県から来ていた陸上部のK君、若くして腎臓病で亡くなった。

元気な仲間を挙げると、麻雀をよくやった阿佐ヶ谷のM君、石川県から来ていたY君もいた。Y君は、今は金沢市内に住んでおり、今回の震災は免れたようだ

が、以前実家は、能登半島の門前町（現在は町村合併後輪島市）にあり、昭和の終わり頃、観光で娘たちをつれていった一宿一飯の恩義がある。

亡くなった人もいるが、元気でやっている仲間もいる。昨年、コロナも落ち着き、大阪でのクラス会に参加した。10数名が集まった。今年は、東京（大学内）でやるらしい。身体が動く限り参加したい。



私が育て、そして私を育ててくれた日々

河野（鈴木）志津子 (製糸S46)

1971年3月、4年間の学生生活を終え、郷里の山形を飛び越えて北海道川上郡弟子屈町（阿寒国立公園のど真ん中で摩周湖、屈斜路湖、阿寒湖がすぐ近く）へ旅立ちました。

あこがれの北海道、道東の自然はどこも美しく絵がきのようでした。極寒の摩周湖でご来光を拝んだり、摩周岳へ登ったり10年間の道東暮らしで北海道のほぼ全域（利尻島を除く）を目にすることが出来ました。観光パンフレットに違わずどの場所も綺麗でした。その間は町役場の税務課で働きました。

道産子の娘の誕生を機に山形に移り、今は山形県のど真ん中、寒河江市に住んでいます。サクランボの産地として知られているかと思いますが、イチゴ、リンゴ、ブドウ、ラ・フランス、ブルーベリー等（さすがに柑橘は無理）果物の美味しいところです。

四方から山が取り囲み、晴れた日には月山、葉山、大朝日岳、蔵王も見渡せます。

そして、この地はバラの土耕栽培や啓翁桜の栽培も盛んで、私も20年ほど前から庭にバラを植えて楽しんでおります。1番早く咲くスパニッシュビューティは1本の老木ですがパラソルを広げたように沢山の花をつけ、初冬の寒い時期にする剪定の苦勞を忘れさせてくれます。香りの良いエヴリン、ヘリテージ、パットオースチン、ロイヤルジュビリーなどのイングリッシュローズは、香りが良く花も優雅で美しく棘と格闘したことさえ忘れてしまいます。

土いじりが趣味なので家の裏に小さな家庭菜園も有ります。当初は何でもいっぱい収穫しようと躍りになっていたのですが、昨今は食べられる分だけ育てる方にシフトしました。消費に協力してくれる孫たちは好き嫌いもなく、何でも良く食べてくれるので無駄に

する事も無くエコだ！とひとり悦に入ってます。

バラを育て、野菜を育て、孫を育て、さて、自分育では？と想うこの頃です。

スパニッシュビューティ、そして何だか可愛いサラダ大根の写真を添えます。



生涯学習が充実している霧島市に移り住んで

武澤（小山）扶美江（製糸S46）

2018年2月に観光地霧島市に来て7年目に入りました。

空は高く、霧島連山やゆったり流れる天降川など自然豊かで、四季の移りかわりを楽しみにしています。週3～4日程8,000～10,000歩ウォーキングしたり、徒歩で行ける温泉に入ったり生活をエンジョイしています。

転居して間もなく「老人会に入ってくれないかな～？」と。「えっ？私が老人会？」まだまだ若いつもりでいたので…。老人会が窓口になり、シニア大学の学生登録を行っているとの事でした。

昨年度から日当山地区の女性委員長として頑張っています。年忘れ演芸大会は、各地区の女性委員長がとりしきります。ベテランに支えられながら無事のりきました。

昨今の演芸大会は166名参加し、ハーモニカやハンドベルや舞踏など日頃の学びや練習の成果を出し合います。私が担当している日当山地区は、男性11名・女性12名による合唱です。男性は、赤の蝶ネクタイ・白のワイシャツ・黒のズボン、女性は赤のバンダナ・白いブラウス・黒のスカートで統一しました。少し緊張しましたが、ハーモニーもばっちりでした。いよいよプログラム16番の「ヤットン節」です。日頃の練習の成果のみせどころです。初参加の男性4名はヨッパライに扮し、女性は6名です。客席と踊り手が一体感のある演出は大成功です。充実感もたっぷり味わいました。隼人町シニア大学から4つのサークルが霧島市の“ゆめのときめき演芸大会”にノミネートされました。

シニア大学は、地区講座と中央講座に分かれています。中央講座は研修視察など4回／年、地区講座は5回／年、公民館ごとに企画立案され、介護予防や交通安全など身近な講座です。私が印象に残ったのは『転ばない体で100才まで』で、自宅でできるストレッチの紹介と実技です。次は『多様な性を知る～多様性を尊重し合う社会をめざして～』です。2014年に男性の

戸籍に変更され「自分を偽らずに生きる!!自分自身を知る事は、他人を知ること～」のお話は真摯な生き方に胸がつまる思いでした。

シニア大学はジャンルを問わず広く学ぶ場です。仲間づくりや心を合わせて皆と行動することを大切にします。

皆さんもシニア大学に参加しませんか？私もいつまでも学ぶ気持を持ち続け、頑張ります！

「大きくな～れ、吹奏楽部!」の4年間

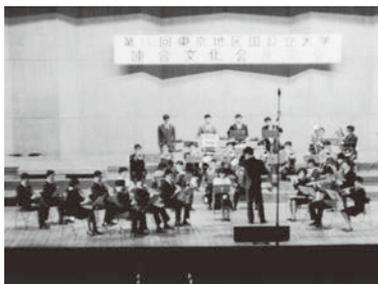
田中 宣廣（製糸S46）

同部の芽生えは60年前の昭和39年に楽器好き数名が集まり、翌年に2、3名を加えて同好会を結成。41年には10名余を加えて吹奏楽クラブ創部となった。

その翌年42年に入学した私は、入学生オリエンテーション時の勧誘で仮入部し新歓演奏会に即参加した。部員が十数名と少なく演奏スケールにももの足りなさを感じ部員増を目指し多数の同期生を誘い一緒に正式入部、総数27、8名と膨らんだ。故に楽器不足も生じ、部での府中競馬場アルバイトを行うなどもした。楽器も部員も増え初心者の練習も活発化、上達しブラスの形が整ってきた頃には大学から「東京地区国公立連合文化会音楽会」への勧めがあり、初の校外演奏に向けトレーナー兼指揮者を外部から招致し参加。他の大学は全部が管弦楽団（以下オケラと表記）で参加の中、我が校のみが小規模ブラスでの参加で他大学とは演奏規模の違いに圧倒された。他大学に劣らぬ演奏発表の為にはオケラを目指せるような我が部の拡充が必要と強く感じた。この経験から部員増と毎年の定期演奏会開催を部の成長目標に決め、早速秋に初回の定期演奏会を学内開催するに至った。目標達成に向け翌43、44年にも新入生勧誘に注力し、新部員と弦バス導入も加えた35、6名を擁す陣容に膨らんだ。この頃私は、奏者兼学生指揮者の任を頂いていて、夏の避暑地や当時の農学部生協二階和室での合宿などを積み演奏をスキルアップ、第2回、第3回の校外（小金井公会堂、渋谷東京都児童会館）定演を開催するに至った。2年の間には早慶戦水泳大会、三織維大学スポーツ大会、農工祭では東京女子体育大のバトン部と共演、農・工各学部音楽祭等々を始め演奏経験を多く積んだ。翌45年にも練習熱心な新部員を加え、四十数名の大編成でのクラシック大曲やアンサンブルにも取り組み、音大からの賛助指揮者を迎え第4回定演を大々的に開催し成長披露するに至った。大きな部を目指して走った4年間の私の願いが叶ったの感慨深いものとなった。

私は「大きく大きく大きくな～れ、大きくなってオケラにな～れ!」と2年生時の合宿日記に書き残した事がある。私が卒業の46年に室内楽部との願いのコラボ「The Joint Concert」（農工大オケラの芽生え）が成ったと聞く。後、吹奏楽団、管弦学団と改称し、それぞ

れが規模も更に大きく発展しているとのことであり、今日の農工大音楽文化の成長を部に関わった方々と懐かしみ喜びたい。



S42 (1967)「東京地区国公立大学連合文化祭音楽会」参加 (筆者後列1stTmbこの年の初回定演と同編成)

樗寮の思い出

津崎 繁義 (製糸S46)

歳を重ねるにつれ無性に学生時代のことが思い出されます。NHKの「こころ旅」流の表現をかりれば「私のこころの風景」、それは東小金井の駅からの街並みとその向こうに見える工学部の建物の風景です。

大分県の田舎町から出てきた私は、希望と不安の中で東京生活(学生生活)をスタートしました。経済的に決して裕福ではなかった私は、宿は寮にと決めました。

当時の樗寮は新築でとても快適でした。寮から工学部の本館に至る道は、両側に新緑の桑畑が連なっていました。そんな牧歌的な景色が私の心をいやしてくれました。

入寮するとすぐに食堂で新入生歓迎コンパがあり、それぞれ自己紹介をさせられ、初めてのお酒も飲んだこと、ついこの間の出来事のように思い出されます。

一年次は農学部で一般教養科目の受講でした。なかでも経済学、社会学、歴史学、文学等の社会科学科目の受講は、それまでの高校科目と違ってとても新鮮でした。その頃から『文芸春秋』『現在』『潮』などの月刊雑誌を好んで読んだものです。

そしてなまじ得た知識をもって、よく仲間と議論しました。当時は学生運動が盛んな時代であり、話は政治、経済、社会問題から人生論、安全保障、防衛問題等々、議論をすることが楽しく深夜に及ぶこともあり、講義をサボることもありました。そんな生活をしていると試験が近づくと大変です。それでも仲間と傾向と対策を練り、どうにかクリアしたものです。楽しい思い出です。

寮には個性的な面々が大勢いました。自治会活動に熱心だったAさん、某政党の機関紙をよく配っていたBさん、某新興宗教にぞっこんだったCさん、寮の主のような存在だったDさん……、そして毎日食事を提

供してくれた食堂のおばちゃんたち。色々な人たちの顔が思い出されます。

みんなどうしているだろうか。どんな人生を歩んだんだろうか。農工大生だもの、それぞれの盤上でりっぱに人生を切り開いていったにちがいないと思うのです。

樗寮での色々な人たちとの出会い、語り、それが私の人格を形成していきました。私の財産であります。

7～8年前、同窓会出席のおり40年ぶりに工学部の構内を歩きました。東小金井駅は高架になり、駅から大学への道も様変わりし、まったく昔の面影はありません。駅から10分ほど歩き工学部の裏門(当時は俗にそう呼んでいた)を入ると、すぐに右手に昔のままの樗寮が威厳と崇高さをもって私の前に立っていました。

玄関前で数人の寮生が談笑していました。そこには40年前の私がありました。走馬灯のように40年前の物語が頭の中を駆け巡っていました。私のような苦学生が4年で大学を卒業できたこと、そして大分県職員として定年まで勤めることができたこと、それは樗寮あつてのことだと思っています。

樗寮生活の4年間、それは私の青春そのものです。「ありがとう樗寮」そして「ガンバレ樗生」、私は心の中でささやいていました。

我がクラス点描

田中 良典 (植防S51)

我々が植物防疫学科に入学したのは昭和47年で、同期入学者は31名であった。

当然のことながら、現役、浪人入り交じっており、年の差は3歳あった。その後他大学の再受験や留年で増減があり30名が卒業までクラスを構成した。

卒業後の進路は教員が最も多く、次いで公務員、団体職員、会社員と続くが、研究者(理学博士、大学教授)、医師(卒業後医学部へ再入学)になった者もいた。

4年間(5年間のメンバーもいるが…)を振り返ると、メンバー間の仲が良く他の学年に比べクラスの結束は強かった。これは、積極的に盛り上げようとするメンバーが複数いたからで、その手法が定例のコンパと植防ノートの存在であったと思われる。

定例コンパは入学直後から月例会並に頻繁に行われ、その模様はカメラに収められ、共有されたこともありメンバーがすぐ親密になった。

植防ノートは、メンバーの1人が授業中退屈しのぎ?に書き始めたのがきっかけだった。それを聞きつけて参戦する者が続出し、誰でも自由に書いて、回し読みするようになった。クスッと笑えたり、ホンワカした気持ちになれる記述も多く、書き手にならなくても読者としてノートを手にするメンバーも多かった。学年が進むにつれて書き手も増え、卒業の頃にはほぼ全員が書くようになり、植防ノートは大学ノート8冊?に達した。

こうしたクラスのまとまりの良さを象徴するのが、卒

業式を控えた3月の伊豆への修学旅行（2泊3日）であろう。出席率は、8割を超え25名が参加した。

卒業後も在京のメンバーが中心になってメンバー情報の収集や発信を担い、撮りためた写真をもとに卒業アルバムの作成と配布やクラス会の企画を行った。また、年賀状の交換、出張や個人的な旅行の際に任意で集まったりで交流は途切れることはなかった。残念ながら卒業後4人のメンバーが亡くなり、所在不明の者もいて現在24名がクラス会の構成メンバーである。

還暦以降は東京で毎年懇親会を行っていたが、令和になってから観光を兼ねて長野、令和5年は熊本で開催した。いずれも出席率は過半を超えた。令和6年は茨城開催で準備が進められており、多くのメンバーが集うことを楽しみにしているところである。



伊豆・修学旅行

自動車部「農工祭の思い出」

宮里 圭一（農工S53）

自動車部というと、やはり工学部自動車部とともに主催した農工ラリーを思い出す。入学当時、自治体の規制が厳しくなりはじめ、前年まで可能だった神奈川県のアイトラリーができなくなり、千葉県での開催だった。それも翌々年にはできなくなり、榛名山を望む群馬県へと移った。多摩湖畔までアイトラリーの練習に行った日々を思い出す。

自動車部のイベントはもうひとつ農工祭への出店があった。農工祭は、地元大学の農園で育った安くて美味しい野菜など農産物を買いに、あるいは犬猫の里親になろうとやってくる方も多かったように思う。同じように、車のエンジンオイルの交換や冬前のちょっとした整備に来られる方も多くいた。日頃から油まみれのつなぎや何故か泥まみれの白衣をまもって整備技術の向上に励み、その要請に応えられていたのではないだろうか。

自動車部では、この車整備の出店のほかにもう一店「そばうどん屋」を出すのが恒例だった。整備技術に優れた部員は車整備へ、自信のない部員はそばうどんに回った。ネジはどちらに回すと緩むのか締まるのか時々分からなくなる自分は当然のことながらそばうどん担当となった。明星学苑の先にあったように記憶している市場で、そばとうどん、海老天やかき揚げ、かつ節や醤油を買い込んで、大学産のネギとともに大きな鍋あるいは釜だったかを使って作っていた。

新潟出身の私は、高校の帰り、雪のちらつく寒い日に食べた汁を思い出しながら濃い口醤油を十分入れて醤油色の汁を温めていた。それを見ていた九州出身の同級生と、そばの汁の色はこれだと声を荒げながらお玉を回していたが、いつしか暗くなり、どんな色になったか定かではない。もう夜は寒い時期でもあり、廃タイヤを燃やして暖をとりながら、夜空に舞い上がった廃タイヤのすすが落ちてきて時々鍋に入るのを見ながら、自動車部らしいそばうどんの味が出たのではないかと言いつつ聞かせていた。

一度、油と泥にまみれた白衣を洗ってもらったけれど、それ以上は声がかかれなかったあの娘はどうしているだろうか、12月の同級会で話しが出て思い出した。

ホームカミングデー2023あれこれ

福澤 徳穂（植防S55）

「Mさんでしょ！同級生だよ」と私。「福澤さん?!」とMさん。案内をしてくれた学生さんが「えっ今?!」と驚いた。

午前中は農工祭巡り。お子様連れも多くて立派なテーマパークだ。午後からは本館でプレゼン。学長が「農工大はこんなに凄い」と力説する。私が大学時代に数学者秋山仁氏が「日本一の大学は東京農工大学」と！その説明は概念的だったが学長の説明は数値で、今の大学は競争の中にあると痛感した。

岡田洋平准教授の「光で絹を紡ぐ」という講話では未だ絹の主成分が合成できるのは蚕だけ。ということを知り、自分が中学校の授業の中で、光エネルギーを取り込んで高エネルギーのデンプンと酸素を合成できるのは植物だけ。と語ったことを思い出す。

最後はキャンパスツアー。嬉しいことに私達の班は2号館4階の植物病理学教室前に。校舎は増築されていたが、私が4年次に多くの時間を過ごした植物防疫学科農薬研究室があった正にその場所だと思う。ご一緒した大先輩の方が「僕の時代はイモチ病を云々」と言われたので卒業学科によって班分けされたと気付いた。この後話が弾んで懐かしい響きが聞こえた。「僕は『シヨクボウ』云々」そうだ。私たちは植物防疫学科のことを「植防」と呼んでいたのだ。そのうち「Mさんの声に似ている」と思う。そして夕暮れとなりツアーが終了する間際、その男性が「僕は80年卒業だけど、あなたは?」「やっぱり」

私は卒業後理科の教師となり、2018年に定年退職。教師という仕事は目の前の生徒たちの細かい事柄に心を砕いて過ごす、その底には高校時代に抱いた日本の未来が沸々と流れていた。2017年の水俣条約発効記念行事で中学生が発表したと聞き、感動して朝の会で生徒に報告する私が出た。

今研究室に立つ方々は、日々細かな研究内容に心を砕き競争に晒されながら、その底には世界の未来に対

する思いが沸々と流れているのだということが今回のホームカミングデーに参加してよくわかった。そして温かいおもてなしに深く感謝したいと思う。



私の卒後40周年

橋 順吉 (林学S60)

私は、昭和56年4月に入学、農学部林学科で4年間、林業に関する課程を修了し、昭和60年3月に卒業しました。

在学中は、3年生から「造林学研究室」に在籍し、森林土壌の物質循環をテーマとした研究に取り組み、群馬県の大谷山演習林に月1回通い、実験やデータ収集に励んだこと。また、部活動では水泳部に4年間在籍し、毎年、関東カレッジ・国公立大会等に出場したことは、40年前の事ですが、つい最近の出来事のように記憶に蘇ります。

卒業後は、昭和60年4月に石川県庁に林業職として入庁し、主として農林水産部の林業行政に携わりました。この間、県庁をはじめ県出先機関となる農林総合事務所勤務を経験させて頂き、令和5年3月、農林水産部次長を最後に定年退職。現在は、令和5年4月より、石川県森林組合連合会代表理事専務として県下4森林組合の下支えに日々励んでいるところであります。

再就職先での令和5年度決算(12月決算)については、系統組合や役職員の皆さんのお陰を以て、良好な業績を上げることが出来たと自負するところでしたが、令和6年1月1日夕刻に突然その時がやってくるとは想像も出来ないことでした。

元旦であったことから、近所の氏神様への初詣を済ませ、自宅でくつろぐ中、今までの人生で経験したことがない大きな地震の発生です。発災後のテレビでは、家屋倒壊、津波被害、火災、道路決壊、地すべり、土石流など悲惨な状況が次々と報道され、本県の自然災害では、かつてない激甚さが伝わってきます。

発災直後から、職場では災害対策本部を立ち上げ、職員の安否確認、被害状況の情報収集を行いました。幸いにも人的被害は無かったものの、能登北部地域では多くの森林組合員、役職員のご自宅が甚大な被害を受けており、現在も避難生活を強いられている状況です。

また、山地にも地すべり・山腹崩壊など大規模な災害が発生、林業生産の基盤となる林道等も甚大な被害が発生しており、その復旧には、現時点では何年かか

るのか見通しが立たない状況となっています。

私的には、県職員を退職して平和なセカンドライフを過ごせるのかなと安泰していたのですが、「私の卒後40周年」の年は、令和6年能登半島地震をきっかけに、これからも郷土の森林・林業の復旧・復興に向けて汗をかきなさいとの神様・仏様のご教示であったのかと、職務に精進する今日この頃であります。



父の愛読書「井上成美」を読んで

古野 優 (獣医S60)

平成25年に86歳で亡くなった父の愛読書に、阿川弘之の『井上成美(いのうせいび)』があります。生前、この本は捨てないでほしいと言っていました。

2021年の暮れ、ふとしたことから少しずつ読み出し、翌年2月ごろ読了しました。海軍きっての知性と言われた井上大将の伝記で、太平洋戦争に至る国や軍の中核の考え、徹底抗戦(本土決戦、一億玉砕)の意見もある中、無条件降伏により終戦を迎える中で井上大将が果たした役割等が書かれていました。

阿川弘之は、海軍での体験を基にした戦争物の作品を多数書いています。作品からは、海軍を大切に思い井上成美のファンであることが読み取れます。何回も出てくるのが、井上大将が海軍兵学校校長時代に敵性語の英語教育の中止の多数意見に対し、敵のことをよりよく知るためにも英語教育は絶対必要とはねのけてしまったエピソードです。敗戦後の日本を立て直すのは、現在の若い学生であること、広く教養を与え、広い視野から戦後の日本を支えていく人材に育てて欲しいと願っていたからのようです。

終戦に当たり大切な役割を果たした陸軍大臣「阿南惟幾(あなみこれちか)」の伝記も読みました。人格・人柄に定評があり、上司からも部下からも慕われる人だったそうです。「一死以て大罪を謝し奉る」との遺書を残し、多くは語らず自決し無条件降伏に反発する陸軍の暴発を抑えたとされています。徹底抗戦を主張する阿南大臣が、無条件降伏を認めた理由は明らかになっていません。書き残すことも、話すこともなかったようです。

父は、海軍に志願し、訓練の最中に終戦の日を迎えました。故郷伊勢に帰り着いた時伊勢市駅周辺は、焼け野原だったそうで、自宅も焼失していました。父は、戦後の新体制の中で、なぜ日本が無謀と言える太平洋戦争に突入したのか疑問に思っていたと思います。

井上大将は、精神論や感情論に流されることなく日本に有利になるには、どうすればよいかを常に考えていました。この合理性と、組織の中でダメなことはダメと命がけで抵抗したことに父は強く惹かれたようです。

一冊の本を理解するのに、こんなに多数の本を読んだのは初めてでした。しかし、この本は捨てないでくれといった父の心情が理解できたと思えました。

クルーズ船旅のすすめ

細井 俊宏 (農工S62)

昨年10月に36年余り勤めた国家公務員を退職し、妻と二人で念願だった10日間のクルーズ船の旅に行ってきました。初めてのクルーズ船でしたが、思っていた以上に良かったので、皆様にもその魅力の一端をお伝えしたいと思います。

まず、クルーズ船と聞くと、とてもお金がかかるものという先入観がありましたが、船室やサービスの違いにより、料金設定に大きな幅があり、選択肢が豊富にあります。例えば、部屋は、最も安い窓なしのツインルームから、最も高いスイートルームまで5ランクに分けられていますが、さらにスイートルームの中でも広さや設備の違いにより7つに分けられるなど、全部で15ランク程度が設定されており、それぞれ料金が違います。この料金には、船室料金のほか、全ての食事代、ノンアルコールドリンク代が含まれます。加えて、船内シアターやレストランなどで毎日、様々なイベントが開催され、自由に参加することができますし、スポーツジムやプールも使い放題です。また、オプションとしてアルコールを含む飲み物がほぼ飲み放題になるプランや船内チップが不要になるプランなど、様々な選択肢があります。ザクッと言えば、最も安く済ませようと思えば20万円程度、最も贅沢なプランでは150万円程度といったところでしょうか。仮に20万円とすると、10日間のツアーですから、1日当たり2万円になります。移動代、ホテル代、食事代がすべて含まれますから、とてもリーズナブルなことがわかります。

食事は、いつでも利用可能なbuffetレストランのほか、前菜やメインを選べるフルコースレストランも無料です。メニューは日替わりなので飽きることがありません。

基本的に寝ている間に航海するので、目が覚めると寄港地に着いていて、寄港地での散策を楽しんだ後、夕方に船に戻るとというのが日課になります。もちろん、寄港地で下船しないで船内で過ごすことも可能です。

乗客約2,700名のうち日本人が約600名、クルー約1,000人はほとんど外国人でしたので、乗船した途端に海外に居る感覚になります。とはいえ、日本語でも問題ありません。年齢層は比較的高く、車いすで乗船されている方もいらっしゃいました。旅慣れた方は、部屋は寝るだけと割り切り、最も安い部屋で長期間乗船

しているようでした。

クルーズ船というと未知の部分が多く、不安もありましたが、いざ乗ってみると居心地の良さや移動の楽しさなどもあり、また乗りたくなります。皆様も是非一度、クルーズ船に乗ってみてはいかがでしょうか。



工学部キャンパスを車窓越しに見て

川合 康夫 (機シスH8) 技術士 (機械部門)

川合康夫と申します。まだまだ若輩者ではありますが、50歳を超え、大学を出るまでより大学を出た後の年数のほうが上回るようになりましたので、僭越ながら私が農工大を巣立ってからの仕事上の軌跡と近況を報告させていただきたく存じます。

私は平成8年に工学部機械システム工学科を卒業し、平成10年に工学研究科機械システム工学専攻を修了しました。そして(株)新潟鐵工所(新潟鉄工)に入社しました。新潟鉄工では、新交通システムにかかわる設計・技術的とりまとめ業務を行い、ゆりかもめの車両の増備車の製造や日暮里舎人ライナーの車両の設計、熊本市や岡山の低床式路面電車(LRV)の設計に関わっていました。おおむね3年そのような仕事をしてから、関西国際空港の保守メンテナンス会社に出向し、関空のターミナルビルの上を走る新交通システム“ウイングシャトル”の保守・点検を担いました。その業務により在学時代に習得した機械工学の知識のみならず、鉄道を受電・変電システムや信号保安システム、軌道・土木的な知識についても習得することができました。残念ながら(株)新潟鐵工所は2001年11月27日に会社更生法の申請をして倒産してしまい、私は転職を余儀なくされましたが、上記の低床式路面電車の技術は、私がいた部門を引き継いだ後継会社(新潟トランス(株))において更なる進化を遂げ、2023年8月に開業した芳賀・宇都宮LRT(ライトライン)の車両へと結実しています。

転職後は東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)へ入社して車両保守作業を担当し、現在はモビリティ・サービス部門車両技術センターで、在来線車両の設計業務を担当しています(令和6年2月現在)。ここでは新造車両の仕様決定、対メーカー調整ならびに法的設計業務として、製造した車両が技術基準に適合しているかを確認する業務を行っています。今担当している

のは中央快速線に2階建グリーン車を新造して、既存の編成に組み込むプロジェクトです。中央快速線のグリーン車は初めて両引き戸となり乗り降りしやすくし、また座席に自動回転機構を取り付けるといった従来のグリーン車にはない機能を備えております。令和6年度末のダイヤ改正以降、営業に投入される見込みです。この車両の試運転の時は東小金井近辺を走行しますので、添乗するたびに工学部のキャンパスを新造車の車窓越しに見ています。私がいた時代よりきれいになって素晴らしいキャンパスだと思っています。



▶ 樹木学実習から生まれたワークショップ

豊田 明日香 (地生H20)

地域生態システム学科、森林科学コースを選択していました。野山をかけまわる実習はどれも楽しく、時に大変でしたが、特に印象に残っているのは「樹木学実習」です。もともと植物は好きな方でしたが、葉の形や鋸歯、手触りの微妙な違いなどを観察し、樹木を同定するのは難しく、植物の造形は奥が深いのだなと感嘆させられました。それでも半年の実習を終えると、百種類以上の種を覚えられ、今まで緑の固まりとして見ていた景色が一気に細分化されました。「まるでぼけていたレンズのピントを合わせたようだ!」と嬉しかったのを覚えています。

この時の喜びを子どもの頃に味わいたかった、との思いから現在、子供ワークショップを企画運営しています。大学から美術部に入って絵を描くようになり、それが高じて水彩画講師として活動していたので、子供ワークショップはよく依頼を受けていました。そこにコロナ禍があり、自然に触れる大切さを改めて実感し、植物観察と水彩画を組み合わせた企画を立てるようになったのです。10～20枚程度の葉っぱを同じ種類で分けるクイズ「葉っぱ神経衰弱」を行って、次にその観察眼を生かして、水彩画で描写するという流れをとっています。ルネサンス期でもそうだったように、観察で発見したことを描き、描くことでまた発見するというのは、自然科学と美術の基礎だと感じています。そして私自身、自然科学と美術は子供のころから大切にしてきた2本柱の分野だったので、それが生かした喜びがとても大きかったです。

幸いにも評判がよく、去年は武蔵野市の市民活動講座に採用してもらい、今年も子供活動の助成金をもって、公民館や子ども食堂などで開催しています。植物は動物に比べ、子どもたちの興味を引きにくいかもしれませんが、動かないぶん観察が容易です。植物によって興味関心の新たなチャンネルが開かれれば、自然から受け取るものは飛躍的に増えます。自然を好きになって大切にしたい

いと思える子、自然の美しさを何かで表現したいと思う子が増えてくれるとことを願い、活動を広げていきます。



▶ 滋賀県の農業土木職員となって12年

鈴木 一成 (地生H25)

地域生態システム学科を卒業し、県の農業土木職員となり、滋賀県での生活をはじめた12年目になりますが、このような執筆の機会をいただきましたので、私事にはなりますが、近況と感じているところを書かせていただきます。

平成25年4月に滋賀県に入庁し、農業農村整備工事に関わる職務を担当しながら県内を異動しておりますが、そのなかでも、森林部局や福島県への災害派遣等、他部局での勤務の機会もいただきつつ、この4月からは、水産部局で勤務しております。この間、県内では、琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業「森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」が世界農業遺産に登録されるなどの大きな動きもありましたが、今回の異動で、山から湖までの各部局に在籍させてもらうこととなり、滋賀県で働く大きなやりがいも感じているところです。

さて、県外から滋賀県に来て、また、県の農業土木職員として働いて印象的だったこととして、人と自然とのかかわりが、琵琶湖を軸にして県全体に対する意識につながっているという点あげられます。県内の河川はほぼ琵琶湖に流れているため、アユやニゴロブナ等の生き物はもちろん、物質や文化の面まで、色々なものが琵琶湖を通じて県全体でつながり、影響を与えています。そのため、自然とかがわるなかで、結果として県全体が意識される、県全体を感じられるという珍しい県だと思います。農林漁業はもちろん、散歩・釣り・登山など、身近な自然とのかかわりを守っていくなかで、県全体の一体感につなげていけたらと考えています。

現在は、琵琶湖という広大なフィールドを自由自在に移動している魚を漁業資源としてとらえ、時間と空間の両視点から、漁業資源の安定的な確保を目指すという新たな分野で、戸惑いも感じているところですが、どの分野に行っても、地域という視点で物事をとらえ、現場で起きている課題を把握し解決に向けて進むという、農工大で学んだことを生かして頑張っていきたいと思っています。

キャンパス便り

新緑の槻の輝く元で

第2回皐槻祭実行委員会 実行委員長 川崎 隆弘 (生体医用システム工学科3年)

第2回東京農工大学工学部学園祭「皐槻祭」は、多くの関係者の方々のご協力を経て、5月19日に無事開催するに至りました。ご来場くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。昨年度より新たに始まった「皐槻祭」という名称は、公募にて決定されました。小金井キャンパスに青々と輝く槻の大木の見守る元で、多くの学生が自身の持つ力を輝かせる機会となったかと存じます。

私が皐槻祭実行委員会に所属したきっかけは、高校時の文化祭がコロナ禍の影響により大幅に規模を縮小されたことでした。当時、文化祭実行委員を務めていた私は、担当教員の方と協議を重ねたものの、最終的に外部の来場者を入れない学内限定という異例の文化祭となりました。そのため、多くの人々が楽しめる学園祭の開催に携わりたいと考え、入学後すぐに皐槻祭実行委員会へ所属しました。

コロナ禍明けの第1回とは異なり、第2回の運営は皐槻祭実行委員会の地力が試されるものでした。昨年度は、想定の2倍を超える来場者がいらっしやったこともあり、今年度は昨年度からの大幅な規模拡大を目標に動きだしました。予算不足や委員の人数不足、さらには物品不足と課題が山積みの中、多くの委員の協力によって何とか実施にこぎつけることができました。

そして当日天候の危ぶまれる中、どうにか曇天にとどまり、第2回皐槻祭は無事、開催をすることができました。学生や農工大関係者の方のみならず、多くの地域の方や弊学を志望する高校生の方にもご来場いただき、盛況のうちに皐槻祭を実施することができました。模擬店の数は昨年度と比べ大幅に増加し、ステージ企画や委員会企画も多くの方にご参加いただくことができました。

第3回皐槻祭は、2025年に実施予定でございます。しかしながら昨今の経済状況にもあり、実施予算、機材ともに厳しい状況が続いております。皐槻祭の今後のため、諸先輩方に置かれましては、皐槻祭のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、東京農工大学歌に次のような歌詞があります。

「歴史を超えて、歴史を築き、世紀を踏み
て、世紀をにのう。」

工学部学園祭は、度々苦難によって途切れながらも、その歴史を乗り越え新たに「皐槻祭」として復活を果たしました。次世代の農工大生が我々の意思を引き継ぎ、皐槻祭の歴史を築き上げ続けることを祈念しております。



プラごみ減らし隊

農学府農学専攻修士課程1年 村井 陽香

私は、学部3年の初めに大学の先輩からの誘いで「プラごみ減らし隊」に加わりました。

コロナ禍での入学が影響し、1-2年次にはサークル活動等課外活動との関わりが少なかった中でしたが、授業で学んだマイクロプラスチック問題や大気汚染などをはじめとする多くの環境問題について、社会にも伝えていけるような活動をしたと考えていたため、またとない好機となりました。

「プラごみ減らし隊」は、2019年に農工大が5Rキャンパス宣言をした際に設立された大学公認の学生団体で、大学内でのゴミ拾い活動、SNSでのプラスチックフリー生活の発信、環境活動家をお招きしての討論会や映画鑑賞会など、さまざまな活動やイベントを行っています。また、プラスチック削減に向けて取り組まれている企業の方々からのお声かけでイベントへの登壇の機会もいただきました。私たちはこれらの活動を通して、「楽しい」から気軽に始めるポジティブなプラスチック削減活動を広げたいと考えています。

一方で、こういった取り組みを通じて、「プラスチックの削減」のみを伝えても世の中に大きなインパクト

を与えられないことを感じていました。そのようなときに筑波大学の環境活動団体にお誘いを受けたことから、2024年4月に国立4大学の環境活動団体共催で「Japan Sustainability Week2024」を開催しました。このイベントでは、「環境問題を自分ごととして捉える」という大テーマを掲げ、各大学の先生の皆様に10分間のリレー形式で「研究×サステナビリティ」に基づきご講演いただいた“Sustainability talks”や、各大学でのワークショップ、図書館展示などを行い、さまざまな側面から「Sustainability」について考える一週間の大型イベントとなりました。

このような経験から、私は、持続可能な社会の実現や環境問題の解決には、1つの分野の研究を深めると同時に、個々の研究を融合していくことの重要性を肌と感じました。今後、自身が研究を続けていくにあたって、視野を広く持ち、農・工だけでない異分野との共創をしていきたいと考えています。

「Japan Sustainability Week2024」の参加者やご登壇いただいた先生の皆様からも沢山の励みになるご感想等をいただき、来年、再来年と続けていくことが、一つの「Sustainable」の形になるのではないかと考えています。

来年の「Japan Sustainability Week2025」への皆様のご参加をお待ちしております。

最後に、この度は、農学部からの多大なるご支援、ご登壇いただいた先生、事務に携わっていただいた皆様に深く感謝し、この経験を糧に、今後も努力していきたいと考えております。ありがとうございました。



東京農工大学科学博物館 支援団体 繊維技術研究会の活動紹介

1. 繊維技術研究会設立の趣旨と経緯

戦後日本の経済を支えた繊維工業が、重機械化学工業、電気・電子工業等に移るに伴い、当大学の繊維関連学科も無くなりました。しかし繊維技術の継承は重要であり、工学部附属繊維博物館（現 大学附属科学博物館）の活動に資することを趣旨として、所蔵繊維機械の動態展示などを行うボランティア団体「繊維技術研究会」が平成11年（1999年）に設立されました。

2. 繊維技術研究会の推移と活動

会員は当初7名でスタートし、一時は30名余を数えました。本学卒業生以外も交えて繊維系や繊維機械系企業出身者が多かったものの、最近はこの種の企業出身でなくて繊維に関心を寄せる会員の比率が増えています。以下が主な活動です。

- ・展示繊維機械（自動繰糸機、シャトル織機、ジェット織機、ガラ紡機、等）の動態展示・解説
- ・科学博物館事業への協力：ビデオライブラリーの制作（2013年）、自動繰糸機動態保存継承プロジェクト（現在進行中）、ワタくりワークショップなど科学博物館イベント
- ・月例講演会：主に繊維に関係した各界の方々に講師を迎え、一般市民も聴講の公開講演会。コロナ禍以降、休止中です。
- ・「設立10周年記念誌」編集制作、CD化：会員による展示機に関わる調査研究等の報文集。
- ・Facebook「繊維のひとコマ」：会員が「繊維に関わる知見・情報」を投稿し、科学博物館ホームページ内「繊維技術研究会」サイトに掲載。
- ・月例ミーティング（原則第3火曜日）：会の運営や課題の話し合い、情報交換。
- ・そのほかに見学会、会員各自の得意分野に関わるものづくり、資料調査・研究、など。

3. 繊維技術研究会の課題と新会員募集

繊維分野で活躍された方々が年々減少するにつれて、会員も高齢化し、コロナ禍で3年間休止状態だったことから、往時の7割近くにまで会員数が減少しました。会員を増やすことが課題です。

ただいま一緒に活動する会員を募集しております。詳しくは同窓会ホームページをご覧ください。

同窓会の皆様のご支援をお願い申し上げますとともに、会員ご加入をお待ちしています。

【お問い合わせ先】繊維技術研究会E-メール
sengiken.noko.haku@gmail.com



第4回代議員選挙について

選挙管理委員長 望月 淳夫

総会代議員の任期満了に伴う、第4回代議員選挙についてお知らせします。

任期は、今回選出時から次回改選時（2年後）までとなります。

下記の会長候補者を除く代議員候補者を10月下旬までに確定します。会長候補者を除く代議員候補者が代議員定数242名を超えた場合は、被選挙人名簿を作成して投票による選挙を行います。なお、定数未満の場合は、候補者全員を当選とします。その旨、10月下旬にホームページでお知らせします。会長候補者については、11月上旬までに確定し、選定結果を11月中にホームページでお知らせします。

記

- ① 会長候補者 1名以上
- ② 部会推薦代議員候補者 ・ 部会長（副会長候補者） ・ 会員数に応じて部会から推薦された者
- ③ 支部推薦代議員候補者 ・ 支部長 ・ 各支部から1名推薦された者
- ④ 立候補代議員 ・ 立候補を申し出た正会員50名以内

部会推薦代議員候補者及び支部推薦代議員候補者については各部会、支部に候補者の推薦をお願いします。

立候補代議員については、同窓会ホームページに掲載する応募用紙を同窓会事務局に9月30日までに提出してください。

会長候補者の公募について

東京農工大学同窓会 理事会

上記「第4回代議員選挙について」の上記①の会長候補者は理事会が提案するとされていることから、下記の方法により立候補者を公募します。立候補者がいない場合は、理事会を中心に調整して候補者を選出します。

記

- ① 立候補者は5名以上の正会員の推薦を必要とします。
- ② 応募する場合は、同窓会ホームページに掲載する応募用紙を9月30日までに提出してください。

掲 示 板



「こはる改め立川小春志真打昇進お祝い会」を開催しました

2024年4月29日（月・祝）に、農学部講堂において東京農工大学創基150周年記念・東京農工大学落語研究会創立60周年記念「こはる改め立川小春志真打昇進お祝い会」が開催されました。本学の卒業生であり現在、広報大使もつとめる立川小春志氏の出身サークルである落語研究会が主催となり、同じく本学卒業生の柳家小八氏、立川志音氏が出演、落語を披露しました。冒頭では船田良農学府長による挨拶のほか、小春志氏が所属していた応用昆虫学研究室の岩淵喜久男名誉教授によるメッセージ動画、落語研究会会長の司会によるお楽しみ抽選会も行われ、落語研究会の卒業生ならびに本学学生教職員、一般の参加者、のべ180名が集いました。

学生のためのアクティブラーニングスペース「テックガレージ」始動

昨年度この掲示板で紹介した、ディープテック産業開発機構の1つの取り組みとして、アクティブラーニングスペース「テックガレージ」が始動しました。学生の専攻の枠にとらわれず、興味やアイデアを追求しサイドプロジェクトを実行する場として機能します。趣旨は本学の強みである基礎研究の分野をいかに速やかに市場に出すかについて、学生も参画したプロトコルを整理して、運営体制の構築と資金および人員調達スキームを整備することです。起業やビジネスコンテスト等に興味を持つ学生が人や情報とマッチングできる場として、学生のインタラクティブで自由な活動ができる施設です。実際の場所は小金井キャンパス3号館の2階です。コワーキングスペースの他、リラックスした雰囲気でも打合せが可能なコミュニティスペース、試作品開発のための工房スペースが用意されています。5月19日に小金井キャンパスで開催された第2回阜視祭でも、研究室見学ツアー参加者・自由見学希望者にこれらのコミュニティスペース・工房の見学の機会が用意されていました。活動内容に興味がある方は、是非ディープテック産業開発機構のWEBページをご覧ください。

慶 弔

慶 事 お祝い申し上げます

(敬称略)

令和5年秋の叙勲

西川 公也 (農工S40)

旭日大綬章

弔 事 ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます

特別荣誉教授 遠藤 章 農学 遠藤 武雄 (S18) 佐藤 望 (S24) 野田 太 (S26) 打田 僕 (S36) 石崎新一郎 (S42) 農乙 大嶋 曹司 (S22) 羽村 進 (S22) 農改 歌田 吉雄 (S42) 高村 芳壽 (S44) 養蚕 真野 保久 (S25) 小澤 安人 (S28) 小澤 光雄 (S30) 山下 健市 (S34) 松本 寛 (S39) 石田 久基 (S40) 織農 角和善三郎 (S25) 蚕別 島岡 一司 (S28) 植防 吉田 純子 (S55) 農化 関 登世彦 (S28) 西納 啓吾 (S31) 小濱 節雄 (S32) 小杉 佳次 (S42) 林産 森木 俊治 (S40)	林産 福田 清春 (S44) 白幡みどり (寺島) (S51) 鈴木 正宏 (S51) 林産/林産院 小林 克宏 (S58/S60) 林学 岩田 銀治 (S24) 小林 純一 (S25) 坂 貞雄 (S26) 八木喜徳郎 (S28) 中山昌治 (小野沢) (S32) 松崎 忠一 (S33) 児玉正二郎 (S36) 篠原 康之 (S37) 林学/林学院 横倉 一民 (S42/S44) 湯本 敏夫 (S45/S47) 林学 横井 恵一 (S45) 林学/林学院 小金澤正昭 (S49/S52) 農土 吉田 保雄 (S26) 農工 井上 令作 (S34) 上村 智貞 (S60) 獣医 川井 忠和 (S28) 野附 巖 (S28) 伊奈 達雄 (S32) 獣畜 吉田 誠二 (S27) 環・資 山田 泰司 (H9)	製糸 山田 宏和 (S22) 糸専 久保 泰朗 (S23) 小丸 豊重 (S29) 繊維 岩波 滋 (S28) 入枝 利夫 (S31) 織工 岩岡 秀典 (S32) 小川 毅 (S34) 市川 幸男 (S35) 廣居 喬 (S39) 石藤 孝雄 (S40) 化工/化工院 飯塚 益弘 (S58/S60) 化工 河野 猛 (S59) 織化 柏俣 操 (S24) 新井 彦一 (S25) 宮 泰介 (S31) 吉村 章平 (S32) 工化 渡辺 猛 (S44) 工化/化工院 伊藤 裕二 (S51/S53) 資源/物生博 和気 仁志 (S60/H4) 機械 保屋野佑平 (S40) 河村 昭信 (S41) 電気 下条 隆 (S55)
--	---	---

※訃報の掲載は令和5年8月以降ご連絡をいただいた方(ご家族から掲載の許可をいただいた方)を掲載しています。

同窓会へのご寄附

故 松本 寛(養蚕S39)ご家族様 他、匿名希望の皆様

同窓会へのご寄附をいただきありがとうございます。

お知らせ

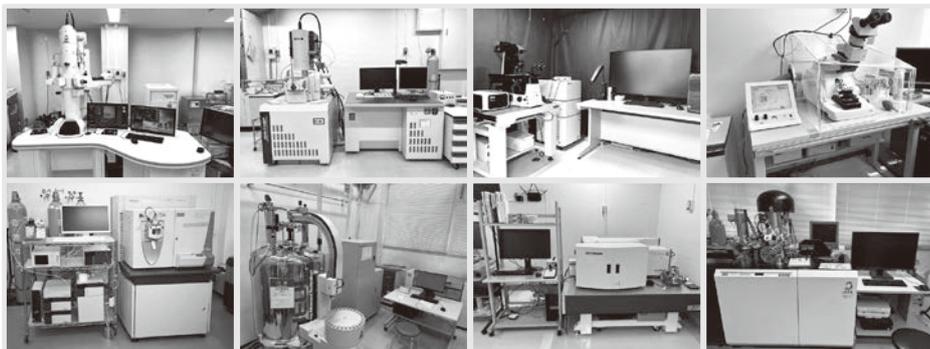
国際基督教大学 (ICU) アーカイブズから情報提供のお願い 昭和28年 (1953年) に在学されていた方にお尋ねします

ICUの正門から続く桜並木について、誰がいつ頃植えたかについて調べています。1953年3月18日付の学内会議録に「東京都公園課から苗木を無償で譲り受けた。高等農林学校の生徒が植樹をしてくれる」という記述があり、これが上記の桜である可能性があると考えています。この作業に参加された方またはご存じの方がいらっしゃいましたら、以下まで、お知らせくださいますようお願いいたします。

・連絡先：ICUアーカイブズ 松山 龍彦 0422-33-3308 matuyama@icu.ac.jp

研究開発・故障解析・品質評価に
最新の分析技術・データ解析を提供します

～東京農工大学 スマートコアファシリティー推進機構～



主な分析機器

- 透過電子顕微鏡
- 走査電子顕微鏡
- 共焦点レーザー顕微鏡
- ウルトラマイクローム
- 質量分析装置
- 核磁気共鳴装置
- 顕微鏡分光装置
- X線光電子分光装置

ご相談・お問い合わせ先

東京農工大学スマートコアファシリティー推進機構

<https://www.tuat-setsubi.org/>

E-mail: scoop-groups@go.tuat.ac.jp



うまいビールで食卓をハッピーに!

BAEREN

岩手県民人気NO.1クラフトビール!

URL: iwate.beer



株式会社ベアレン醸造所

〒020-0061 岩手県盛岡市北山1丁目3-31

代表取締役社長 鳶田洋一
(1990年 蚕糸生物学科卒)

CATERING Service

出張料理

パーティ・御宴会は
サンブリアで!!

お集まりにふさわしい雰囲気演出致します。

IN VINO VERITAS
SANTGRIA

〒183-0027 府中市本町 1-1-7
TEL : 042-368-6368
H P : <https://santgria.jp>





都内在住者に限らず、
首都圏、全国からも
ご参加ください！！

東京農工大学 創基150年記念懇親会

日程：2024年11月30日(土)14～16時

場所：小金井キャンパス エリプス3Fホール

主催：東京農工大学同窓会 東京都支部

会費：5,000円（事前申込制/先着100名）

～開催趣旨～

大学のお膝元である東京都支部は、これまで少数の有志によって活動が続けてきました。大学創基150年という節目の年に、多くの同窓生と交流をはかりたいという熱い思いから、記念懇親会を開催する運びとなりました。主催は東京都支部ですが、首都圏など近隣、あるいは全国からの参加も大歓迎です！久しぶりに同窓の皆と一堂に会し、懐かしい話に花を咲かせませんか。

東京都支部では支部規約や役員体制を整える活動も行っています。支部同窓会活動にご興味のある方も是非ご連絡ください。



申込締切日:2024年10月31日(木)



申込方法:左のQRコードを携帯等で読み取りお送りくださるか、メールまたは携帯のショートメールにてご連絡ください。

e-mail : tuatreunion@gmail.com

電話 : 090-5740-3785 (支部長:栗原)

事務局だより

1. 会費納入のお願い

同窓会はみなさまからの会費で支えられています。
本会の維持・活動のために会費納入にご協力をお願いいたします。

会費は次の通りです。

1. 終身会費 30,000円／70歳以上 10,000円
2. 年会費 1,500円

(支払った日の属する年度(4～3月)分になります。)

同封の払込票にて、上記いずれかの金額を納入してください。
会費を納めていただくと「正会員」になります。

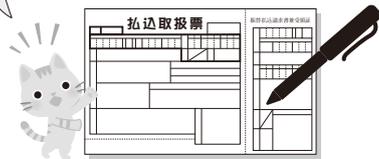
◇農工通信に払込票が同封されていない方は納入済です。

◇年会費は過去に遡って納入の必要はありません。

※7月下旬時点のデータに基づいておりますため、行き違いで既にご入金いただいておりますらご容赦ください。

◇新たに70歳以上の会員が終身会費(10,000円)を納入する場合は、払込票の備考欄に生年月日をお書き添え下さい。

払込票の発送は年1回です。
ご協力お願いします。



2. 現住所等、ご登録情報に変更はありませんか？

毎年、お送りしている農工通信が住所不明で多数返送されてきます。現住所、お名前、勤務先等が変わられた際は、同窓会への届出も忘れずをお願いいたします。

同窓会ホームページ「会員情報の変更」から随時変更が可能です。同封の変更連絡票はがきでも受け付けております。



3. 在学生への就職支援 勤務先情報提供のお願い

就職支援の一環として、就職活動中の在学生に対し、みなさまの勤務先と氏名の情報提供をしております。勤務先情報を提供されない場合は、同窓会HP「会員情報の変更」等からお知らせください。ご連絡がない場合は了承されたものとして、就職情報を在學生に提供させていただきます。なお、過去にお知らせいただいている情報提供の可否に変更がない場合は、改めてご連絡いただく必要はありません。

4. 会員情報提供について

平成22年5月『同窓会会員名簿』発行の廃止に伴い、個人情報の提供につきましては、部会・支部・クラス会からの依頼により、従来の会員名簿に替わるサービスを行っております。

詳しくは同窓会ホームページ「入会・会員情報」の「会員情報提供について」をご覧ください。

なお、本会が保有している会員の個人情報の公開については、ご本人の意向に沿って管理・運営し、個人情報保護には万全を期しております。



5. 「農工通信」寄稿 随時募集！

寄稿内容は自由です(例：随想、近況報告、研究紹介等)。また「農工通信」に掲載する写真や絵、イラストも募集しています。

①一般寄稿：文字数 800字程度(写真1枚) 2月末までの到着分を次号9月の農工通信に掲載します。

②クラス会報告：300字程度(写真1枚) 同窓会HP「クラス会だより」に掲載後、農工通信に掲載。

③画像作品(写真や絵画等)：表紙や挿絵に使用します。※採用の際はご連絡いたします。

・送付先email：tushin@tuat-dousokai.jp 同窓会事務局「農工通信」宛

・郵送の場合は原稿、写真等は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

編集後記

Editor's note

広報・情報部長 村上 尚(応化H12)

本年、東京農工大学は創基150周年を迎え、大学として様々な事業が進められており、本号でも関連する話題が多く触られています。同窓会としても、学生や同窓生の皆様の親睦を深めるための事業を進めております。また、支部・部会報告や同期会等のご報告を拝見すると、対面での参加者も増加傾向にあるようで、コロナ禍前の活発な同窓会活動に戻りつつあり大変嬉しく思います。部会・支部総会の開催予定等については同窓会ホームページでご覧頂けますので、是非ご参加をご検討頂ければ幸いです。

農工通信 第105号

発行日 令和6年(2024年)9月1日

発行所 一般社団法人 東京農工大学同窓会

連絡先 〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1

(一社)東京農工大学同窓会事務局

TEL 042 (364) 3328

FAX 042 (335) 3500

e-mail info@tuat-dousokai.jp.org

URL https://tuat-dousokai.org/

振替口座 00120-8-265877番

加入者名 一般社団法人 東京農工大学同窓会

印刷所 小野高速印刷株式会社

〒870-0913 大分県大分市松原町2丁目1番6号

お中元、お歳暮、贈り物に最適
部会、支部会、同窓会でも
ぜひご賞味下さい。

[しょうてんろく]
賞典禄

農工大ブランド本格焼酎

本学では、農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター(FSセンター)で栽培した原料(米・芋・麦)をもとに製造した農工大ブランドの本格焼酎「賞典禄(しょうてんろく)」を販売しています。

酒類販売管理者標識

販売場の名称及び所在地	東京農工大学農学部フィールドサイエンスセンター 東京都府中市幸町3-5-8
酒類販売管理者の氏名	本林 隆
酒類販売管理研修受講年月日	令和5年8月22日
次回研修の受講期限	令和8年8月21日
研修実施団体名	一般社団法人 日本ボランティアチェーン協会



米焼酎

芋焼酎

麦焼酎

長期貯蔵酒(米)

賞典禄 FAX 注文票 以下のとおり注文します。

東京農工大学 FS センター 宛 FAX : 042-367-5801

【ご注文内容】

		年	月	日
長期貯蔵酒 米焼酎 (2,000 円) 40 度 720ml	本	米焼酎 (1,600 円) 25 度 720ml	本	
焼酎 米・芋・麦 3 種セット (4,500 円) 25 度 720ml×3	セット	芋焼酎 (1,600 円) 25 度 720ml	本	
		麦焼酎 (1,600 円) 25 度 720ml	本	
合計注文金額			円	

【ご注文者様情報】

お名前		フリガナ		
住所	〒			
電話番号		FAX 番号		
生年月日	T.S.H	年	月	日

※年齢確認をさせていただく場合がございますのでご了承願います。

- 【ご注意】
- ※1 お支払いは代金引換またはクレジットカードになります。詳しくは下記 URL をご覧下さい。ただし、FAX でご注文された場合のお支払いは、代金引換のみとなりますので、ご注文者様以外への配送は致しかねます。
 - ※2 ご注文いただいた上記金額の他に、送料 (5,000 円以上は無料) 及び代金引換手数料 (代金引換額に応じた所定の金額) が必要になりますので、予めご了承願います。
 - ※3 本注文票により収集された個人情報は、賞典禄の販売以外の目的には使用いたしません。

ネットショップ：農工大FSセンター夢市場

<https://noukoudai.com/> URLが新しくなりました。



問い合わせ先

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター事務室

TEL042-367-5811



❁ 電子メールアドレスご登録のお願い

同窓会員の皆様にはメールアドレスの登録にご協力いただき、データベースを構築してまいりました。以来、同窓会からのご連絡を電子メールにて迅速に行うことが可能となりました。引続き、メールアドレス未登録の会員様におかれましては登録の手続きをお願いいたします。

メールアドレスは同窓会からのご連絡および、部会、支部*からのご案内に限定して使用しますのでご安心ください。

なお、部会・支部からの案内送付の可否は選択いただけます。

*部会(卒業学科・専攻単位)・支部(登録住所の都道府県単位)の活動です。

支部からのご案内は、ご登録のある都道府県を元にしておりますので、現住所をご登録いただけますと幸いです。

❁ 会員情報の変更はこちらより

HP「入会・会員情報」より随時受付！



❁ この春大学を卒業・修了された皆様

学部卒業時に(修士、博士から入学された方は修了時から)同窓会の会員になります。

保護者の方が賛助会費を納入された場合は、在学期間中、会報は保護者様宛てにお送りしておりましたが、今号より同窓会員(本人様)宛てにお送りしております。

ご卒業後に住所変更された場合は、会員情報の変更をお願いします。

❁ ご覧になりましたか?「交流ラウンジ」好評です!

同窓会ホームページに開設した「交流ラウンジ」では、各地で活躍している同窓生、頑張っている在校生の紹介をしています。

また「交流ラウンジ」では様々な形で活動している会員が企画しているイベントの情報を紹介して、交流の場を広げようという取り組みをしています。皆様からのイベント情報をお待ちしています!

